

仙台の復興
支援活動
2012

仙台市市民活動サポートセンター
仙台市シニア活動支援センター

2011

3.11



2012



2013

3.11 からの支援のかたち

— 仙台の復興支援活動 2012 —

はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災から2013年で2年が経過しました。

震災により大切な家族や知人を失った方、津波被害や宅地被害などにより住まいやコミュニティを失い仮の住まいに住まわれている方、また雇用・就労問題に見通しがつかない方はまだまだ数多くいらっしゃいます。

震災復興2年目の2012年、復興支援活動においては、物資供給や慰問活動から、仮設住宅地域でのコミュニティづくり支援や地場産業の復興、仕事づくり支援へ。そして被災者個人に深く刻まれてしまった心の傷を癒す心のケアや生きがいつくりなどへ、失われたものをゆっくりと取り戻し、癒す活動へと変わってきました。

これから先、生活の自立に向け継続的な支援が必要になってきています。現場では、現在でも多くの市民活動団体やボランティアの方々が支援活動を続けていますが、一方で徐々に県内外からの支援者も減ってくるなど、被災地を取り巻く状況は時間の経過とともに刻々と変化しています。

仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）では、多数の情報が飛び交い、消えていく中、復興支援活動を行う団体への支援として、被災地内外から寄せられる支援情報をまとめた「震災復興支援活動情報 サポセンかわら版」を毎月1回発行し、被災者のみなさん、支援者の皆さんに情報を提供してまいりました。また、当センター通信「ぱれっと」を通じて様々な支援活動を取り上げ紹介することで、地域を超えた支援団体同士の連携を促進してきました。

本書では、震災復興から2年目の仙台において、市民活動が主体となり行われた復興活動や地域づくり、NPOや企業、行政を含めた様々な支援者により行われた協働の事例をまとめました。現在行われている支援活動情報を広く伝え、これからも続く被災地での活動の支援者を一人でも多く増やしていきたいと考えています。

市内の復興活動情報の記録として、そして仙台のこれからのまちづくりや協働の在り方を考える資料として本冊子をご活用いただければ幸いです。

2013年3月

仙台市市民活動サポートセンター

も く じ

はじめに 1

I 被災地からの再生 5

▶ 若林区 協働による復興支援活動の動き 6

地域課題や被災者ニーズの把握 解決に向けたネットワークづくり

■六郷・七郷コミネット

支援格差の改善と互いに支えあう 福祉のまちづくりを考える

■若林区社会福祉協議会

▶ 宮城野区 住民が主体となった復興の動き 10

今、進むべき方向を見極めるとき 優しく楽しい岡田をつくる

■がんばっぺ岡田の会

離れていても心は一つ 自らの力で立ち上がる

■中野支援隊

大人も子どもも笑顔で 地域の人みんなで支えあう

■かむり川絆の会

地域住民の想いを集め まちの未来を描く

■南蒲生町内会復興部

▶ 〈参考データ〉仙台市の応急仮設住宅の状況 14

II 支援の輪 15

▶ NPO・市民活動団体による復興支援活動 16

■公益財団法人 共生地域創造財団

■一般社団法人 パーソナルサポートセンター

■支援者のための支援センター TOMONY(トモニー)

■NPO法人 POSSE(ポッセ) 仙台支部

■一般社団法人 ReRoots(リルーツ)

■NPO法人 冒険あそび場 ーせんだいみやぎネットワーク

■NPO法人 市民福祉団体全国協議会復興支援事務所

■社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 中核支えあいセンター

■みやぎ生活協同組合 ボランティアセンター

■津波復興支援センター

■東北学院大学 災害ボランティアステーション

■公益財団法人 宮城県国際化協会

■NPO法人 Switch(スイッチ)

■被災地障がい者センターみやぎ

■みやぎ手話工房フロムハート

■仙台グリーンケア研究会

■仙台傾聴の会

■NPO法人 宮城県断酒会

■お手玉サークル たんぽぽ

■NPO法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク

■一般社団法人 マザー・ウイング

■ふくしまほっこりカフェ実行委員会

▶ 広がる・深まる支援を伝える ～「支援の輪」掲載団体一覧～ 28

III 情報発信をデザインする 29

▶ 伝えることで復興に貢献 30

震災に向き合い 被災地の“今”を伝える学生記者

■情報ボランティア@仙台

活動を継続できる環境と仕組みをつくる

■NPO法人 ボランティアインフォ

▶ 震災の記憶の風化を考える 32

考えるテーブル 支援のかたち

～被災地からの情報発信をデザインする～

■NPO法人 HUG/東北復興新聞

▶ 被災地から情報を発信すること 34

■河北新報社 編集局デジタル編集部

■震災復興地域かわら版「みらいん」編集部

■西原(にしっぱら)新聞編集室

■NPO法人 20世紀アーカイブ仙台

▶ 復興へ 情報発信による協働 36

IV 市民活動支援施設としての役割 37

▶ 復興のひとづくりを考える報告会 38

～仙台の復興支援とその人材に関して～

▶ 仙台市市民活動サポートセンターの取り組み 41

▶ 参考資料 43

～震災復興支援活動情報「サポセンかわら版」より～

・支援情報一覧

・イベント・講座情報一覧

・NPO・市民活動団体等による電話相談

・復興支援グッズ

あとがき ～2013年に向けて～ 51

I

被災地からの再生

仙台市若林区と宮城野区の沿岸部は、東日本大震災の津波による被害が大きかった地域です。これまで、被災地では様々な支援活動が行われてきました。震災復興2年目は、生活再建に向けた支援に加え、地域コミュニティの再生、復興のまちづくりへ向けての動きが顕著になっています。サポセンで行った復興支援、交流促進事業を通し、若林区と宮城野区の各地域での取り組みに注目します。

若林区 協働による復興支援活動の動き

若林区内の特徴的な動きとして、地域をつなぐため、市民活動団体、企業、行政、大学といった部門を超えた団体同士の連携や支援格差改善のため支援団体のネットワークが生まれるなど、互いの資源を活かした協働型の支援活動が展開されています。その中で、「六郷・七郷コミネット」と「若林区社会福祉協議会」によって行われたネットワークを活かした支援活動を紹介します。

地域課題や被災者ニーズの把握 解決に向けたネットワークづくり

六郷・七郷コミネット

六郷・七郷コミネット（以下、コミネット）は、仙台市若林区六郷・七郷地域に関わる住民や企業、NPO、大学、社会福祉協議会、市民センター、行政（区まちづくり推進課など）で構成され、地域で必要とされる支援を団体同士の協力により効果的に実施するためのコミュニティネットワークです。2011年6月に発足し、2011年度はネットワークの形成や、若林区日辺グラウンド仮設住宅でのお茶っこサロンなどを展開してきました。

●「地域誌作成」「お茶っこ」「情報」の 3つの部会による活動

2012年度のコミネットでは、3つの部会をつくって活動しています。

「地域誌作成部会」では、被災した地域の地域誌作成に取り組み始めました。集団移転を余儀なくされる地域は、地域そのものが人々の記憶とともに失われてしまう可能性があります。地域の記憶を記録として残すため、NPO法人20世紀アーカイブ仙台が所蔵する昔の地域映像を活用し、仮設住宅集会所、市民センターなどに集まった被災地域住民の方にご覧いただき、一人ひとりが思い出した地域の記憶を、地域誌としてまとめ

ていくという取り組みを続けています。

「お茶っこ部会」は2013年1月、「お茶っこ部会拡大版」を開催しました。若林区内で被災者の方向けに「お茶のみサロン」を実施している10団体が集い、互いのノウハウ共有や支援のあり方を考える場を提供しました。「お茶っこ」はコミュニティ形成の方法のひとつであると同時に、会話の中からその人の生活上の問題を見つけられる場です。「お茶っこ部会拡大版」では、それぞれ団体間で問題解決につながる相談先の情報などを共有し、若林区のセーフティネットを強化することに成功しています。

しかし、仮設住宅で「お茶っこ」活動を実施してきた多くの団体が、これからもこの活動の継続が必要であることは強く感じながらも、活動資金の問題などから、今後の活動継続が可能かどうか不安を感じています。このような不安も、部会を通じ解決していくことが必要です。

「情報部会」は、コミネットのホームページを利用して、コミネット参画団体の活動や、若林区内で行われるイベント情報などを紹介し、全国へ向けて復興の動きを発信しています。

●若林区の現状の把握と共有

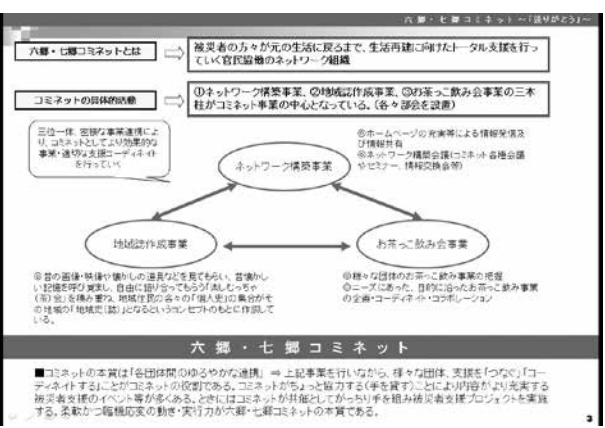
2012年8月にはコミネットと若林区役所の共催で「支援者のための若林区復興情報セミナー」を開催しました。約50人の支援者が集まった中、若林区副区長から仙台市復興計画の説明、各仮設住宅の自治会会長からは被災コミュニティの現状をお話いただき、これからの若林区の復興に向けた展望と課題を共有する場となりました。

●新たな取り組み「復興応援隊」

2012年10月より、コミネットに復興応援隊として20代の2人が加わりました。「復興応援隊」は、被災地の住民主体の地域活動を促進するため、宮城県が市町村およびNPOなどと連携して地域人材を育成する取り組みです。2人は現在コミネット事務局として、参画団体のネットワーク構築、仮設住宅などで行われる参画団体の支援活動の補助など、多種多様な業務に取り組んでいます。いずれはこの若い2人が、コミュニティ形成や地域団体のネットワーク形成など、地域の復興において重要な役割を担っていくことになるかと期待されます。

六郷・七郷地域を中心として、様々な個人・組織が力を合わせているコミネット。復興まちづくりは、市民協働の力により少しずつ進み続けています。

〈六郷・七郷コミネットとは〉



▲3つの事業を行いながら、各団体間のゆるやかな連携を目指す

〈参画団体一覧（順不同）〉

株式会社ユアテック／河北新報社／公益財団法人共生地域創造財団／七郷市民センター／情報ボランティア@仙台／鈴鹿医療科学大学／仙台市生涯学習課／仙台市若林区社会福祉協議会／東北学院大学災害ボランティアステーション／東日本大震災圏域創生NPOセンター／復興大学災害ボランティアステーション／みやぎ生活協同組合ボランティアセンター／六郷・七郷活性化協議会／六郷市民センター／若林区中央市民センター／若林区まちづくり推進課／NPO法人アスイク／NPO法人子ども育成支援協会／NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター／NPO法人難民を助ける会／NPO法人ハーベスト／NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク／NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンター／NPO法人杜の都 仙台ナショナルトラスト／キッズナウ



▲地域紙作成部会が開催した「昭和の仙台8ミリ画像で楽しむ茶会」



▲各団体同士の情報共有・交換が行われる「お茶っこ部会」

六郷・七郷コミネット事務局
（若林区役所まちづくり推進課）
【連絡先】〒984-8601
仙台市若林区保春院前丁3-1
TEL 022 (282) 1111 内線6136
FAX 022 (282) 1152
【URL】http://67comi.net/

支援格差の改善と互いに支えあう 福祉のまちづくりを考える

若林区社会福祉協議会

震災前から、住み慣れたまちで安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを目指し日々活動してきた若林区社会福祉協議会（以下、区社協）。区社協の元々の機能は、若林区内9つの各地区社協と連携・協働を図りながら、「地域福祉活動の推進」「日常生活自立支援事業（まもりーぶ仙台）」「福祉資金の貸付」「福祉団体の事務」などを通して地域福祉を推進することです。

●地域福祉と東日本大震災

東日本大震災後は、主に若林区災害ボランティアセンターと南部津波災害ボランティアセンターの運営により、被災された方のお困りごとにボランティアをつないできました。

しかし、ボランティアセンターの運営をしている間も、上記のような地域福祉活動が止まることはありません。従来の活動に加え、仮設住宅や借上げ民間賃貸住宅などで被災された方に向けた活動を展開し、地域と個人に寄り添い続けました。

●地域のためのより良い支援とは

そんな中、日が経つにつれ1つの問題が表面化してきました。仮設住宅間で支援の格差が生まれ始めたのです。大きな仮設住宅に支援が集まるようになり、小さな仮設住宅や借上げ民間賃貸住宅には十分に支援が行き届かないという課題が生まれました。そこで区社協は2012年1月に「復興の輪ミーティング」という取り組みを始めました。

復興の輪ミーティングでは若林区内で支援活動を行う様々な団体が集い、それぞれの情報を共有します。情報を共有する場をつくることにより、物資やイベントなどの支援の偏りを解消しています。また支援活動の日常化や過剰な支援が、元々のコミュニティの絆に対し悪影響がないよう、本当に必要な支援とは何かを考え続けています。

参加者は、仮設住宅の自治会の方々や、コミュニティ支援や被災農地の再生を行う市民活動団体、そして、被災地を支援したいという企業など。実に多様な団体が、特定の課題に、様々な視点からの意見を投げかけ、各々の団体が抱えている課題を解決しています。

復興の輪ミーティングはほぼ毎月開催され、毎回10～30の団体が参加し、2013年2月現在で13回を数えました。議題も多岐にわたり、各仮設住宅で行われている手仕事のノウハウや、お茶飲みサロン運営上の悩みなど、様々な情報共有や対話が行われました。支援団体同士で顔の見える関係が生まれた結果、協働による事業も生まれました。例えば、日本産業カウンセラー協会東北支部はメンタルヘルスへの援助技術を持った専門職の団体ですが、復興の輪ミーティングに参加しながら、区社協、六郷市民センター、支えあいセンター*と連携して借上げ民間賃貸住宅入居者向けのサロン活動を協働で行いました。その結果、サロンの場での見守り活動に専門的な見地が加わり、気になる方については区役所の保健師や地域包括支援センターにつなぐなど、きめ細やかな支援体制の構築が進みました。

※支えあいセンター：仙台市社会福祉協議会の「中核支えあいセンター」は、主に借上げ民間賃貸住宅入居者

の支援事業を担当し、各区に窓口があります。若林区には「支えあいセンターわかばやし」が区社協と同じ建物内にあり、常設で相談を随時受け付けるほか、個別訪問、サロン活動を区社協と連携しながら行っています。

●福祉のまちづくりに向けた取り組み

区社協では、被災地域を含めた若林区全域での住民同士が支えあう福祉のまちづくりを目指しています。

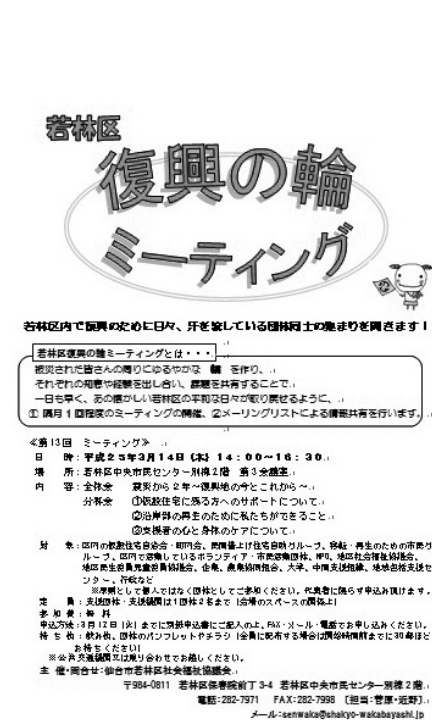
その一環として、地域の自治会役員の方などを対象とした平成24年度「若林区地域福祉フォーラム」を開催。

ゲストとして、兵庫県芦屋市で住民による復興のまちづくりをされてきた方と、仮設住宅から復興公営住宅への移行期の被災者の見守り活動を行っていた神戸市の保健師の方を招き、18年前に起きた阪神・淡路大震災後の地域コミュニティの再生に関する内容でお話いただきました。このように区社協では、住民主体のまちづくりの在り方を探り始める取り組みを行っています。

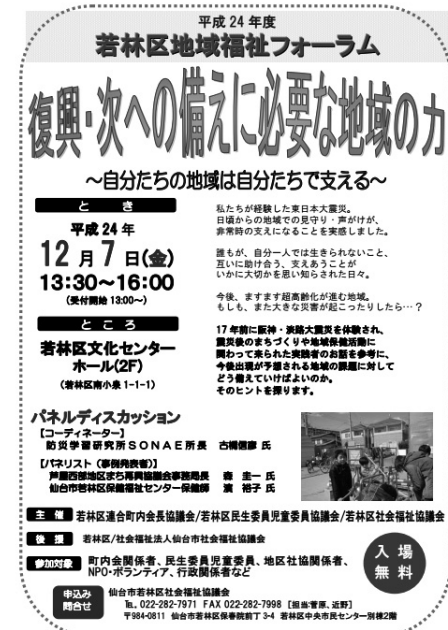
●福祉のまちづくりを考える会in若林

区社協では、福祉のまちづくりを進めるための方策について検討する委員会を設置しています。若林区在住、在勤または若林区での災害ボランティアセンター運営に関係した人の中から市民センター職員、大学教授、教師、NPO職員などのメンバーが、これからの福祉の視点に基づいたまちづくり、ボランティアや福祉の担い手育成について、それぞれのフィールドや経験から考える場です。

ここで議論された内容は、町内会のコミュニティ機能強化を目的に、2013年中に若林区内の町内会でモデル事業として実施される予定です。



▲復興の輪ミーティング



▲若林区地域福祉フォーラム
復興・次の備えに必要な地域の力



▲第1回若林区復興の輪ミーティング



▲被災者向けのサロンを協働で開催



▲福祉のまちづくりを考える会in若林

仙台市若林区社会福祉協議会

【連絡先】〒984-0811

仙台市若林区保春院前丁3-4
若林区中央市民センター別棟2階
TEL 022 (282) 7971
FAX 022 (282) 7998

【E-mail】 senwaka@shakyo-wakabayashi.jp

【 U R L 】 <http://shakyo-wakabayashi.jp/>

宮城野区 住民が主体となった復興の動き

宮城野区では、震災後1年が過ぎたころから支援を受けるだけでなく、自分たちの地域は自分たちで支え合っていこうという動きが出始めました。岡田地区を中心に活動してきた「がんばっぺ岡田の会」に続くように、「中野支援隊」「かむり川絆の会」が活動を展開。また、「南蒲生町内会復興部」は、住民が主体となりNPO、行政とともに復興のまちづくりを考えています。

今、進むべき方向を見極めるとき 優しく楽しい岡田をつくる

がんばっぺ岡田の会

がんばっぺ岡田の会は、宮城野区岡田地区の住民の心の復興と、自分たちの暮らす地域を自らの手で盛り上げようと結成された団体です。震災後バラバラになってしまった住民が一堂に会する場を提供しようと、「おかだ夏まつり」や「復幸を願う音楽祭・岡田の風」、「岡田の灯り」、「映画上映会&ミニコンサート」、「高砂地区社協まつり」参加など、数多くの地域の住民参加型の催しを開催してきました。これらの活動にあたっては、被災地の住民とこれまで出会う機会がなかったNPOが連携することで成果を上げ、震災後の地域をつなぐ原動力になった活動事例として注目されています。

●地域の住民を巻き込んで

現在、会員は15人。イベント開催時には、会員のほかに毎回10～20人ほどのボランティアも関わっています。資金源は寄付や募金のほか、事業ごとに助成金を申請して運営。なによりも地域の方に喜んでもらえることが活動の励みであり一番の喜びだそうです。震災から2年余り、当初に比べて地域に住む人たちの意識の中に変化が出てきたと代表の伊藤正敏さん。「その兆候として、人の集まりが減ってきていますね。特段集まらなくてもそれぞれコミュニケーションが取れるようになったのではないでしょうか」。

●みんなでつくろう、ふるさと岡田

そんな状況の中で、会としての活動の意義が問われている時期。「メンバー同士でじっくり話し合い、活動内容などを見直していこうと思っています」と、伊藤さん。「目指すところは、現代版岡田青年団。大人も子どもも一緒に、岡田に伝わる昔遊びを継承していくなど、まだまだ自然が残っている地元での遊び方や楽しみ方をつくりたいです」と岡田の将来を見据えた活動にしていきたいと語ります。

また学校やPTAとのつながりを深め、今も続いている県内外からの被災地支援の受け皿になりたいとも考えています。被災地の小中学校を中心に桜の木を植樹し、大震災と津波の記憶を受け継いでいこうというプロジェクト「桜3. 11プロジェクト」とのコラボレーション企画として、2013年3月17日に岡田小学校で地域音楽祭「岡田の風Vol.2」を開催しました。子ども支援という視点が、今後の活動を継続していくカギとなりそうです。

地域の絆を取り戻すため積み重ねてきた活動の実績と人とのつながりは、確実に会の財産となりました。がんばっぺ岡田の会が、これからの岡田の地域づくりを支え牽引していく集団として、試行錯誤しながらもその底力を発揮した活動が期待されます。



▲2012年8月「おかだ夏まつり」を運営するメンバー



▲2012年12月 高砂社協まつりで豚汁を振る舞う

がんばっぺ岡田の会

【代表者】伊藤正敏
【E-mail】ganbappeokada@yahoo.co.jp
【URL】http://ganbappeokada.sakura.ne.jp/

離れていても心は一つ 自らの力で立ち上がる

中野支援隊

震災で被災した宮城野区中野地区の住民は、長年住み慣れた土地を離れることを余儀なくされ、避難所から仮設住宅に移るなか離れ離れになってしまいました。もう一度住民の絆を取り戻したいと、仙台港背後地6号公園仮設住宅の有志が集まり、中野支援隊が結成されました。「被災後これまでたくさんの方々からの支援を受けてきましたが、いつまでも支援に頼ってばかりではいけない。これからは住民自らが復興に向け立ち上がりなくてはならない」と、代表の片桐豊彦さん。

この地区にあった中野小学校の児童は、現在は同じ宮城野区にある中野栄小学校の児童と一緒に学校生活を送っています。活動の一つとして2012年5月中野小学校運動会終了後PTAが主催する昼食会で、約450人分の焼きそばなどを子どもたちやその家族に振る舞いました。以前から隣近所みんなが顔なじみで、中野小学校が地区のコミュニティの中心だったといいます。この日は子どもや孫を応援するかたわら、お互い震災後の近況を語り合う姿があらこちらで見られ、久しぶりに地域住民が集う交流の場となったのでした。

震災から2年が過ぎてもまだまだ支援が必要な被災地の実情を伝え、企業からの協賛も得るなど、活動の幅を拡げています。被災地の人々の立場に寄り添って息の長い支援活動が求められる今、地域住民が中心となり活動する中野支援隊の存在は、ますます重要になっています。



▲2012年5月 中野小学校の運動会での支援活動

中野支援隊

【代表者】片桐豊彦
【連絡先】TEL 090(2848)6798

大人も子どもも笑顔で 地域 みんなで支えあう

かむり川絆の会

震災から1年が過ぎた頃、「これからは地域の人々で支え合っていくことが必要。まずは、子どもたちや子どもに関わっている人たちが元気になる支援を行いたい」という思いから、かむり川絆の会の活動がスタートしました。

2012年6月には、仙台を中心に音楽活動をしているイケメン'ズと「ふれあいコンサート」を企画。また、12月には仙台出身のオペラ歌手浅野和馬さんと地元で活躍するコーラスグループとの合同コンサートを行いました。両者とも、被災した地域を元気にしたいという会の趣旨に共感し、協力を申し出てくれたの実現でした。

同じく被災者支援を行っているボランティア団体「iーくさのねプロジェクト」との協力体制も得られ、会場となった鶴巻児童館、岡田児童館、しらとり幼稚園、高砂市民センターには、たくさんの方々が集まり、子どもたちはもちろん、お母さんや地域の方々にも笑顔が広がり、「音楽を通して元気をもらえた」と好評でした。

資金面では「宮城野区被災者交流活動助成事業」を活用。助成金の申請にあたっては、サポセンや担当課である宮城野区まちづくり推進課に相談しながら進めてきました。「思いに共感してもらい、その輪が広がっていくことが嬉しいです」と会を牽引する岡部つい子さん。これからも地域の子どもの大人が集えるふれあいの場を設けながら、明日への生きる勇気が湧いてくる地域を目指す活動が続きます。

かむり川絆の会

【代表者】岡部つい子
【連絡先】TEL&FAX 022(259)1066



▲2012年11月「ふれあいカフェコンサート」を開催

地域住民の想いを集め まちの未来を描く

南蒲生町内会復興部

宮城野区の南蒲生地区は、震災によって甚大な津波被害を受けました。さらに、災害危険区域の線引きの変更に翻弄され、同じ町内会の中に、防災集団移転事業対象区域のため移転する住民、区域外で現地再建する住民、区域外でも移転を希望する住民と“三者三様”の立場の方々がいる地域です。その中で震災直後の避難所生活から仮設住宅に移り、少しずつ自分たちの町のこれからのことを考える余裕がでてきたといいます。

●住民が立ち上げた「復興部」

南蒲生町内会の中に「復興部」が設けられたのは、2012年1月のこと。復興まちづくりを推進するため、新設された復興部は独立して活動することが町内会の総会にて承認されました。芳賀正部長を中心に、事務局長には若手を起用、約20人の部員が中心となって活動しています。ほぼ毎週水曜日に定例の事務局会議や誰でも参加できるワークショップが開かれるなど、会合の回数は、2012年末までに50回を超えました。その議事録は、ブログや毎月の町内会報告会などによって町内住民へ報告されています。

2月に町内として、「南蒲生地区住民の再建に関する要望書」を仙台市に提出。3月に行われた仙台市震災復興本部副本部長（当時）との意見交換会を経て、4月には「基本構想」を策定し、市に提出しました。その後も、全世帯を対象とした再建方法の意向を調査するアンケートを実施したり、再建希望別にワークショップやグループ会議を重ねるなど合意形成を図ってきました。



▲再建希望別のワークショップ

「町内に混在する“三者三様”それぞれの立場を尊重しながら、ともに南蒲生の将来像を考えていこう」というのが復興部の基本的な考え方。しかし、その想いをまとめるまでの経緯は決してスムーズに進んだわけではなく、遅々として進まない復興に焦りや苛立ちの声もあがりました。そのたびに、丁寧に話し合いを重ねることによって理解や納得が得られるようになったそうです。

12月には、活動の集大成として「南蒲生復興まちづくり基本計画」がまとめられ、要望書とともに仙台市に提出されました。それは2020年を見据えて、「杜の都の田園文化を受け継ぐ『新しい田舎』を目指す」ことを目標に掲げています。その実現に向けて、市や志縁者と連携しながら具体的に取り組むべきこととして、①安全・安心な暮らしができる環境づくり、②次代につなぐ居久根（いぐね）^{*}のある景観づくり、③南蒲生らしさを活かした産業・交流づくりの3つのプロジェクトが掲げられています。

●地域づくりを牽引する住民力

震災直後の1年は、とにかくバラバラになってしまった住民の絆をつなぎ、復興への気力を持ち上げることに力が注がれましたが、2年目の2012年は、復興へ向けてじっくり話し合う場が設けられた1年だったようです。

しかしそうしているうちにも、これまで何回か強い余震による津波警報・注意報や避難指示・勧告が発令されました。現在、避難場所や経路についてはまだ解決されていない課題も多く、被災地に暮らす住民にとって、道路や堤防、避難施設などハード面の整備も伴う「安全・安心な暮らしができる環境づくり」は、命に関わる重大

※居久根（いぐね）：

宮城県では、屋敷の周囲を取り囲むように植えられた樹木（屋敷林）を「居久根（いぐね）」と呼んでいます。

なことだけに急務を要する要望です。

その一方で、若手有志によって地域再生に取り組むグループ「えんの会」が結成され、行政、企業、NPOなどの参加を得ながら新しい価値観や仕組みを作り出そうと動き出したことは注目すべきことです。

南蒲生の未来を見据えたまちづくりの軸となる、仙台平野の原風景である居久根の再生と継承を考えるために勉強会を開くなど、できることから行動に移して活動を始めています。「えんの会」の名称が示すように、人の縁を紡ぎながら縁の下の力持ち的存在として、どんな「南蒲生らしい景観」を描き出していくのか今から楽しみです。

また、南蒲生にある多彩な資源、例えば、農地や海浜、川、浄化センターなどを積極的に活用しながら、生産から加工・販売まで一貫した6次産業化を目指す企業との連携も期待されるところです。新たな企業の進出で雇用も生まれ、農業へ付加価値を付けることで、この土地の魅力発信につながっていきそうです。

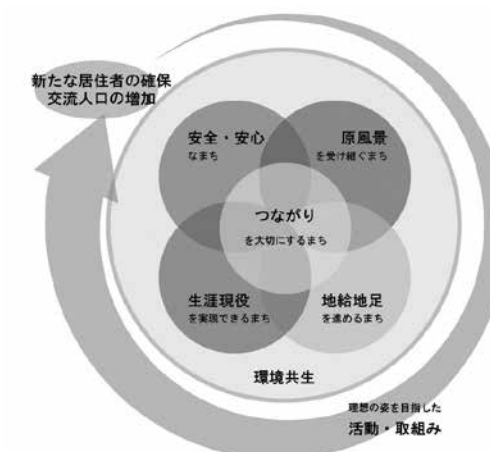
復興のまちづくりは一朝一夕にできるものではありませんが、「10年後、結果として現地再建してよかったなあと、思えるようになれば良いですね」と、復興部長の芳賀さん。「他のまちとはどこか違う、南蒲生らしさがあふれたまちにしたい」と、話してくださいました。

●復興部をサポートするNPO

復興部の支援者として、まちづくりの専門家であるNPO法人都市デザインワークスの存在は欠かすことができません。代表の榊原進さんを中心に仙台市が派遣する「まちづくりコンサルタント」として、南蒲生町内会の復興に向けて支援しています。これまで住民と行政の中間的な立ち位置で「住民の意見や提案」を「行政との協働で実現可能な事業」にするためにはどうすれば良いかを検討し、住民にも行政にも案を示していく「つ

なぎ役」を担ってきました。「あくまでも主役は住民。自分たちのまちづくり・復興計画を認識してもらうことが大切です」と、榊原さん。行政に何でも頼るのではなく、住民が主体となって地域が抱えている課題を解決し、その地域の魅力を生かしたまちづくりの実現をサポートしていきたいとのことでした。

復興へ3年目となる2013年は、実現に向けての確かな一歩を踏み出す年。そのためにも、被災地の住民、行政、NPO、企業が同じ土俵に立って被災地の未来のまちを描いていくことがさらに求められてくるのではないのでしょうか。それがひいては、仙台市が掲げる「協働のまちづくり」の実現にもつながっていくことでしょう。



▲「新しい田舎」を目指す、まちづくりの5つの方針とその展開イメージ



▲復興部のミーティング

NPO法人
都市デザインワークス
【代表者】榊原進
【連絡先】〒980-0802
仙台市青葉区二日町6-6-903
TEL 022 (264) 2405
FAX 022 (798) 0080
【E-mail】info@udworks.net
【URL】http://www.udworks.net/

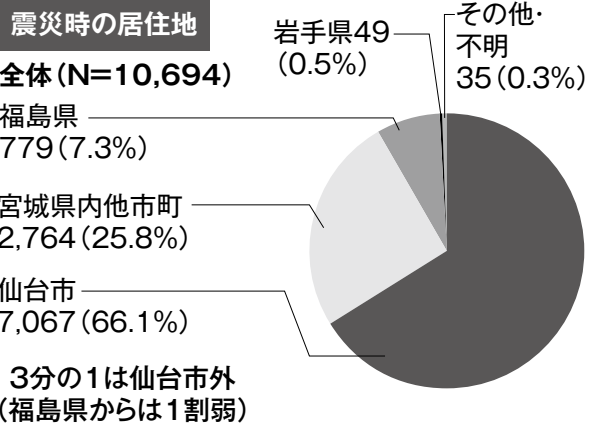
南蒲生町内会復興部
【代表者】芳賀正
【連絡先】TEL 090 (4042) 9464
【URL】http://blog.canpan.info/okada/

〈参考データ〉仙台市の応急仮設住宅の状況（2013・3月現在）

応急仮設住宅

入居世帯数			
	平成24年 3月30日 現在	平成25年 2月1日 現在	割合
プレハブ 仮設住宅	1,346世帯	1,206世帯	11.3%
借上げ民間 賃貸住宅	9,838世帯	8,729世帯	81.6%
借上げ 公営住宅等	825世帯	759世帯	7.1%
合計	12,009世帯	10,694世帯	100.0%

入居世帯の状況



プレハブ仮設住宅内訳

区	箇所名	建設戸数
宮城野区	① 仙台港背後地6号公園	100
	② 鶴巻一丁目東公園	47
	③ 港南西公園	42
	④ 福田町南一丁目公園	62
	⑤ 岡田西町公園	82
	⑥ 高砂一丁目公園	32
	⑦ 扇町四丁目公園	80
	⑧ 扇町一丁目公園	131
若林区	⑨ 荒井土地区画整理事業小学校用地	194
	⑩ 荒井2号公園	24
	⑪ 荒井7号公園	15
	⑫ 若林日辺グラウンド多目的広場	63
	⑬ 若林日辺グラウンド	134
	⑭ 七郷中央公園	60
	⑮ 六丁の目中町西公園	19
	⑯ 卸町五丁目公園	95
太白区	⑰ 卸町東二丁目公園	92
	⑱ あすと長町38街区	233
合計		1,505

プレハブ福祉仮設住宅

太白区	⑱ あすと長町26街区	18
-----	-------------	----

プレハブ仮設住宅位置図



※資料:「仙台復興レポート Vol.4」仙台市復興事業局震災復興室

II

支援の輪

震災前のNPO・市民活動団体の持つ資源(リソース)を活かし、震災直後から、被災地では多様な支援活動が行われてきました。そして、復興へ向けて動き出した2年目は、さらに支援の輪が広がっていきましました。サポセンで発行してきた「サポセンかわら版」に掲載してきたコーナー「支援の輪」から、その動きを振り返ります。

NPO・市民活動団体による復興支援活動



支援

公益財団法人 共生地域創造財団

未来に向けた共生地域の創造を目指して
現地の方と共に働き共に歩む“伴走型支援”

困窮者支援の全国のネットワークと生活協同組合の力を活かし、緊急支援から復旧復興支援へと精力的に活動を行ってきた「共生地域創造財団」。事務局長はいじまかずまさ 齋島一匡さんに、2年目の復興支援活動の様子を伺いました。

●物的支援から自立支援へ

共生地域創造財団は、ホームレス支援全国ネットワーク、グリーンコープ連合、生活クラブ生協の三者で構成されています。震災発生直後は、避難所や自宅避難者に物資提供を行ってきました。行政の制度の狭間にあって、光が当たりにくいところへ目を向けた支援活動を続けています。

現在は、被災地の産業復興支援と生活困窮者支援を行っています。宮城県石巻市と宮城県亶理町でそれぞれ漁業支援と農業支援を行い、被災した地域の産業を一步步復旧に導く手助けをしています。同時に地域の困りごとの相談役として、コミュニティや文化的な活動を地域で実施していくためのサポートをしています。

震災が起きた年は、財団のつながりを通じて全国から集められた支援金を元に、牡蠣の養殖場の再建やイチゴ農家の支援など、物理的・人的に直接支援活動を行ってきました。その成果が少しずつ出始めた2012年には、地域の自立を妨げないように地域の人自らが価値を増やしていくように、対話を通しながら活動しています。

●地域の課題解決は、住民の手で

最近では、財団の強みを活かして地域の困りごとを解決するため様々な事業を提案し、地域住民を巻き込んだ事業をしています。

例えば、大船渡市におけるバス停設置事業があります。はじめに、小学生が利用する風雪をしのぐバス停を設置したいという要望がありました。即時的にプレハブ小屋の調達をすることは簡単ですが、単に一つの課題や悩みを解決するだけではなく、地域のつながりや愛着が増すような取り組みを行いました。それは、地域の木材資源の利用、地元アーティストと小学生や地域住民によるペインティングで装飾を施すなど、地域のコミュニティづくりも視野に入れた活動となっています。

共生地域創造財団は2012年に公益性が高い法人としての公益財団法人認定を受けました。これからも被災地を中心に地域の中で相互に生活困窮者を支援する活動をより具体化させ、また、雇用の場づくりと生活困窮者が徐々に社会生活に入り、自立する仕組みをつくりたいそうです。

齋島さんは、「地域に住む人々が自らの力によって主体的に作り上げていくことが重要であり、それを共に考えて行動することが大事だ」と、復興に対する今の思いを語ってくださいました。

(2013・3月取材)



▲対話を通しながら、地域の人々の手で、自立した地域づくりをサポート

公益財団法人 共生地域創造財団

【代表者】代表理事 奥田知志

【連絡先】〒982-0003
仙台市太白区郡山5丁目6番2号
TEL 022 (748) 6336

【URL】<http://from-east.org/index.html>

▲地産の木材、子どもたち、地元のアーティストと、地域資源を組み合わせ完成したバスの待合室



支援

一般社団法人 パーソナルサポートセンター

パーソナルサポートセンターの伴走型就労支援
丁寧なマッチングと生活困窮者支援ノウハウで成果

2011年3月3日に設立された一般社団法人パーソナルサポートセンター（以下、PSC）は、社会のセーフティネットからこぼれ、貧困や生活不安になってしまう人を支援するために、分野を超えたいろいろなNPOが集まって結成された団体です。震災後の2011年6月からは、市内の仮設住宅において、被災者の孤独死・自殺など防止のため「安心見守り協働事業」を仙台市と協働で実施してきました。2013年1月末現在、市内3区約600世帯で日常的に活動しています。

●孤独死を防ぐ見守り支援から 生きがいを見つける就労支援へ

2011年12月にあすと長町にオープンしたコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」には、2013年2月末時点で、延べ2,200人を超える利用者がいます。引きこもりがちの方の外出を促し、手仕事や軽作業をしながら互いに会話することで心を軽くし、若干の収入も得られる場を作り出すなど、そのメニューの充実にも力を入れてきました。

2012年初頭にPSCは、仮設住宅に暮らす方々の生活の実態とニーズを適格に把握するための調査を実施しました。プレハブ仮設・借り上げ仮設住宅などに入居する世帯の勤労者世帯所得平均は276万円、借り上げ民間賃貸住宅に暮らす世帯では344万円と、仙台市勤労者世帯所得平均約450万円（2009年）を大きく下回ることが分かりました。また非正規社員の比率は52.3%で同時期の全国平均35.1%を大きく上回るなど、仮設

住宅入居世帯における生活や就労の問題が明らかになりました。

そういった状況を踏まえてPSCは、就労支援事業の本格化を早め2012年6月に就労支援相談センター「わっくわあく」をオープンしました。

●被災者の個々の課題に応じた 生活再建のために支援を展開

「わっくわあく」では、まず面談を通して仕事や生活に関する悩みなどを整理し、それぞれの状況に合ったサポートプランを作成して支援を行っています。就職決定がゴールではなく、新しい職場に定着し暮らしを安定させることを目指しているのも、就職が決まってからのアフターフォローも欠かせません。オープンから9ヶ月の2013年2月末までに約196人が相談に訪れ、75人の方の就職が決まりました。

2012年10月からは職業体験実習も開始しました。実習生一人を受け入れると、企業には1日3,000円（最長20日間）の運営費が支払われ、実習生には実習に参加した期間に応じて最大10万円が奨励金として支給されます。生活に困っている求職者が現金収入を得る機会をつくり、働くペースに慣れてもらうのが狙いです。

今の被災地の求職者が抱える課題の多くは、大震災の前からあった重要な社会課題です。被災者支援から生活困窮者支援へと今後フェーズが移って行く中で、PSCは丁寧な伴走型支援で課題解決を目指していきます。（2013・3月取材）

一般社団法人
パーソナルサポートセンター

【代表者】代表理事 新里宏二

【連絡先】〒980-0802
宮城県仙台市青葉区二丁目6-6
ジャンボール青葉2階
TEL 022 (399) 9662
FAX 022 (224) 1621

【E-mail】info-kizuna@personal-support.org
【URL】<http://www.personal-support.org/>

▶PSCが運営する「café Quône（カフェ クオーネ）」が、2012年12月末にオープン。仙台ではまだ珍しい、ライ麦粉を使用したパンケーキが中心メニューのお店です。シングルマザーや子育て中の方など、家庭の事情で勤務時間に制約があっても、ワークシェアリングしながら、ここで技術を身に付け、職場経験を積んで本格就労につなげています。



支援

支援者のための支援センターTOMONY（トモニー）

支援者に伴走し、 支援にあたるあらゆる人々を支援する

今回の震災では、ボランティアやNGO・NPOの人だけでなく、行政職員や福祉・医療にかかわる人、民生委員・児童委員や自治会役員など多岐にわたる人たちが、広範囲の被災地で自らも被災者でありながら支援活動を続けています。このように被災地で継続的に支援を行うためには、被災者である地元の支援者が支援活動を続けていかなければなりません。ところが、被災経験や長期の支援活動から、ストレスを抱えている支援者が少なくありません。これらの方々自身が元気を回復し、よりよく周囲の人々をケアしていくために、支援者を対象としたリフレッシュの機会や心のケア、研修が必要になっています。このような、支援者を対象とした支援が、長期の支援活動では必要であることを伝えることも重要です。

●長い目でみた支援活動を支える 「ケアする人のケア」を考える

支援者のための支援センター TOMONYは、震災発生の1年後にできた支援者支援のための組織です。被災地の復興支援活動を続ける支援者の支援のため、被災地宮城の団体のみならず、関西などの東北以外の団体も一緒に設立されました。

TOMONYでは、主に4つの事業を行っています。
1.『支援者のための支援』の周知啓発、2.支援者の心のケア研修、3.支援者のための支援の場の提供、4.スーパーバイザー養成講座です。

支援者の心のケア研修では、支援者が現場である被

災地を離れることができる機会を定期的に提供し、バスツアーなどで息抜きや交流の会を催し、“燃え尽き”を防ぐ取り組みをしています。現場を離れられない支援者には支援者向けのセルフメンタルケアのサロンを開催するなど、多様な取り組みを行っています。

●支援者支援の人づくり

また、支援者支援のための知識を持ったスーパーバイザー育成を年間を通じて実施しています。支援者に寄り添い、ケアにあたることのできる人材が各地に、各団体にいることが大変重要だからです。

長期的な支援の取り組みのためには、支援者が疲弊しないための環境づくり、支える仕組みが必要です。まずは、支援者が自分の時間を持ち、自身を大切にする生活が重要であることを自覚すること。組織や支援にあたるスタッフが仲間に支えられ、闊達に活動できるよう環境を整えることです。そうすることで、被災された方が、住まう・学ぶ・働く・費やす・交流する・癒すといった日常生活を取り戻していく過程を支える、質の高い支援が可能となります。課題の多様化、潜在化が進む中で、支援活動も支援者の支援も、あらゆる団体・セクター（民間・行政・企業）が、ノウハウを連携させないと対応できないのではないのでしょうか。

（2013・3月取材）



▲多様な支援者が集まり、支援者支援の取り組みを開始



▲支援者が“燃え尽きない”ために、現場を離れる休息を提供

支援者のための支援センターTOMONY

【共同代表者】 小澤義春（みやぎ生活協同組合 くらしの安心サポート部 部長）
遠藤智栄（地域社会デザインラボ 代表）
桑原文（一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン 代表理事）

【連絡先】 〒980-0014
仙台市宮城野区榴岡2丁目3-15
花本ビル8階 みやぎ生協内
TEL 070 (5623) 4408

【E-mail】 office@tomonyjapan.com

【URL】 <http://www.tomonyjapan.com/>



支援

NPO法人 POSSE（ポッセ）仙台支部

一人ひとりの困りごとに耳を傾け日常生活を支えます

●避難所から仮設住宅へと移る中、どんな支援をしてきたのですか。

POSSE仙台支部は、若者の労働問題に対して、調査、啓発、相談などの活動を実施してきた団体です。震災後は、避難所から仮設住宅への引っ越し支援や被災した子どもの学習支援、仮設住宅での送迎支援を始めました。また高齢となって自分で支援制度を利用できない方の手続きをサポートするなど、POSSEが震災前に行っていた労働問題への相談対応力を活かした支援も展開しています。

震災から時間が経つにつれ必要に迫られてきたのは「就労支援」でした。被災して職を失った方も多く、また短期の求人が多いなど、被災した方の就労状況は決して良くはありません。POSSEは就労の問題に対応するため、仙台市生活再建支援室と協働し就労支援事業をスタートさせました。

●個々の被災者に寄り添った対応を心掛けているのですね。

就労問題は本人の働く意欲の問題とされがちですが、実際には働きたいという思いを持っている方がほとんどです。求人の条件が悪かったり、就労のための社会的な支援が不十分だという問題もあります。POSSEでは、就労のために何が必要なのかを一人ひとりの相談者の方と一緒に考え、必要に応じたサポートを行います。そして就労後も安心して働き続けられるよう、様々な専門機関と連携し、被災者に寄り添ったサポートを継続して実践していきます。



▲POSSE仙台支部事務局の渡辺寛人さん
「今後は就労も含めた生活全般の相談も受け入れ、誰もが安心して暮らせる社会を実現するための取り組みを行っています。一人で抱えこまず、困ったことがあったら相談して欲しいです」

【連絡先】 〒980-0014
仙台市青葉区本町1-14-20
キクタビル6階
TEL 022 (266) 7630
【E-mail】 sendai@npoposse.jp
【URL】 <http://blog.goo.ne.jp/sendai-posse/>



支援

一般社団法人 ReRoots（リルーツ）

地域住民が主体となった農業再生に向けた「地域おこし」

●どのような支援活動をされているのですか。

宮城県有数の農業地域である仙台市若林区は、津波で大きな被害を受けました。ReRootsは、震災後に結成された学生主体の団体で、農業の再生を目指して、若林ボランティアハウスを拠点に全国からボランティアを受け入れ、「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」というコンセプトを掲げて活動しています。

まずは、農地のガレキ撤去やビニールハウス設置などの「復旧」支援、さらに農機具の貸し出しや経営主体の確立など職・食・コミュニティの融合する空間としての農業「復興」、その先に新規就農者の育成や人の往来を促す仕組みづくりなどの「地域おこし」も視野に入れ、中長期的に活動する計画です。

●被災地の“農”を中心とした支援に力を入れているのですね。

農家と協力して2つの市民農園をOPEN。荒浜孤塚農園は、主に若林区荒浜で被災した住民を対象としています。野菜を作ることによる生きがいつくりと、人が集まることでコミュニティ再生のきっかけづくりを目指す場です。一方、三本塚市民農園は一般向けの市民農園です。ガレキ撤去の支援は難しいけど、家庭菜園ならできるという方が、遊休地の保全に協力しながら農作業に取り組み、地域の交流人口を増やすことで農業を通じた地域の活性化と、地域の復興を促す媒介の役割を目指して活動しています。



▲ReRoots代表の広瀬剛史さん
「2012年11月、仙台市中心部にある仙台朝市に“若林区復興支援ショップりるまゐ”をOPENしました。若林区の復旧や復興の様子を伝えるアンテナショップとして、営農を再開した農家の野菜や、仮設住宅などで製作されたグッズを販売しています」

【連絡先】 〒984-0033
仙台市若林区荒浜字今泉59-3
TEL&FAX 022 (762) 8211
【E-mail】 reroots311@yahoo.co.jp
【URL】 <http://reroots.nomaki.jp/>



NPO法人 冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワーク

産直野菜の販売を通じた、地域のコミュニティづくりと見守り活動

●「産直広場ぐるぐる」の活動について教えてください。

若林区で生産されるこだわり野菜やお米などを紹介することで、若林の農家や買い物困難地域の住民が双方向で元気になることを目指して活動してきました。震災により農家も職員も被災し再開が危ぶまれましたが、直後から野菜を求め訪ねてくる人が多かったことから早期再開を目指しました。「若林マルシェ」のお客さんは主に地元住民と、近隣に民間のアパート等を借りてお住まいの荒浜地区や福島県から避難してきた方です。生産者の顔写真を飾り、野菜ができるまでの過程を丁寧に説明し、目と目を合わせた販売を心がけています。

●産直市を通して、人と人とのつながりが広がっているのですね。

「若林マルシェ」では産直野菜の販売を行う一方で、地域のコミュニティづくりにも気を配っています。産直市とともにやっている「おしゃべりサロン」は、買い物をきっかけにいろいろなお話ができるよう、場の提供をしています。お客さんは、野菜スープやサラダを試食しお互いの近況を確認し合っています。ここに来て、お友達の輪が広がり、新たな近所づきあいが生まれるといいですね。食べて、おしゃべりして、心もからだも元気になって帰っていくお客さんの姿と、その様子を聞いて喜ぶ生産者の笑顔がなによりのごちそうです。今後も被災者との対話を大切にしながら見守り活動に注力していきたいです。



▲産直広場ぐるぐるを運営しているスタッフの皆さん
「若林区の農家が生産した安心・安全な新鮮野菜お届けします。現在は市内6ヶ所でお店を開いています。配達・ご予約も承りますので、どうぞお気軽にお問い合わせください」

【連絡先】〒984-0826
仙台市若林区若林3-1-18
若林ハイツ103号
TEL 080 (1692) 4633
産直広場ぐるぐる（直通）
連絡可能時間帯：9:00～17:00
【E-mail】asobo@coral.plala.or.jp
【URL】http://www.bouken-asobiba-net.com/



NPO法人 市民福祉団体全国協議会復興支援事務所

ホッと一息くつろげる「パラソル喫茶」を開催しています

●どのようなきっかけで「パラソル喫茶」を始められたのですか。

「パラソル喫茶」では、コーヒーやお茶を飲んだり、食事会を開きながら、仮設住宅入居者の皆さんが自由に語り合える居場所づくりをしています。被災の背景、地域性など異なる点がありますが、阪神・淡路大震災の時には「さわ（茶話）やかパラソル」が大活躍したという事例を聞いて、宮城の被災地にも住民同士が交流する場が必要だと思いました。そして、まずは自分たちができることからやってみようこの活動を始めました。

●いろいろな人や団体と連携しながら活動をされているのですね。

各仮設の状況が違いますので、支援者や団体の得意なところを活かし、多彩なサポートを心がけています。「茂庭台すずめの宿」「さくら会」「NPO法人ナルクみやぎ」「パストラルケアPネット」「男の台所サロン」「仙台傾聴の会」の方々と協働し、若林区は七郷中央公園仮設、荒井小学校用地仮設、卸町5丁目公園仮設、JR南小泉アパート。宮城野区は扇町1丁目公園仮設、扇町4丁目公園仮設、岡田西町公園仮設、仙台港背後地6号公園仮設などに定期的に訪問しています。

これまで居場所づくりを中心とした支援活動をしながら、信頼関係を築いてきました。今後は仮設住宅に入居されている皆さんのコミュニティづくりや自立に向けたサポートを行っていききたいと思っています。



▲復興支援事務所の藤田佐和子さん（写真左）
「一人じゃないですよ。あなたのそばにいますよという思いで、皆さんに寄り添っていきたくと思っています。『パラソル喫茶』の、のぼりを目印に、ぜひお気軽にお立ち寄りください」

【連絡先】〒981-3133
仙台市泉区泉中央4-2-7
第5TASビル401
TEL 022 (342) 9155
FAX 022 (342) 9156
【E-mail】fukushi.npo.shien@gmail.com



社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 中核支えあいセンター

みなし仮設での孤立を防ぎ、地域とのつながりを後押し

●支えあいセンターとは、どんなところですか。

仙台市内では震災により、民間アパートなど借上げ民間賃貸住宅に入居されている世帯が応急仮設住宅全体の80%を超えています。市内に広く点在していることから、必要な支援や関連する情報が届きにくいという状況があります。支えあいセンターでは、生活支援相談員による巡回相談や「情報コーナー」を設置し被災者支援情報の提供を行っています。また被災者のニーズを拾い上げ、孤立化を防ぐため個別訪問を実施。被災者の方々からの困りごとの相談を受け、関連機関と連携し継続した見守り活動を行います。

●支えあいセンターには、どんな相談が多いのですか。

心身の健康面の悩みや、住宅再建の見通しがつかないための心配や不安が多いです。「茶話会など交流の機会や集える場所の情報が欲しい」との声も多く、地域に出るきっかけとなる交流イベントやふれあいサロンを関係団体と連携して開き、交流の場づくりも進めています。市内には気仙沼市、南三陸町、石巻市や福島県などから避難されている方も多く、同郷の方々と再会したい、交流したいという想いが強いようです。今後も震災で転居を余儀なくされた方々のために、地域に自然につながるような環境づくりを手助けし応援していきたいと思っていますので、ぜひご相談ください。



▲中核支えあいセンター所長庄子健一さん
常設支えあいセンターは、青葉区と太白区は仙台市福祉プラザ4階に、宮城野区、若林区、泉区は各区社会福祉協議会内に設けられています。
開所時間：火曜～土曜日 8:30～17:00

【連絡先】〒980-0022
仙台市青葉区五橋2-12-2
仙台市福祉プラザ4階
TEL 022 (217) 7234
FAX 022 (721) 1266
【URL】http://www.shakyo-sendai.or.jp/n/311_support/center



みやぎ生活協同組合 ボランティアセンター

手を取り合い、助け合い、日常の生活を取り戻すお手伝い

●ボランティアセンターでは、どのような支援を行っているのですか。

2011年5月より、被災された方々のくらしを応援するため各関係機関と連携しながら、コミュニティづくりなどを応援するボランティア活動に取り組んでいます。その一環として県内約50か所で「ふれあい喫茶」を開催し、皆さんがほっとできる場を提供しています。時には手作り小物作りをしたり、歌を歌ったりと、参加者のコミュニケーションを図る場としても活用していただいています。また、被災された方々の生活再建が進むよう、「ふれあい喫茶」の場や被災者懇談会で寄せられた声をまとめ、行政への要請活動も行っています。

●「ふれあい喫茶」の活動の様子を教えてください。

「ふれあい喫茶」は、プレハブ仮設住宅や、仙台市内3か所のみなし仮設住宅などでも開催しています。また、みやぎ生協六丁の目店（若林区）など店舗のメンバー集会室の会場には、近隣の仮設住宅、借上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々が多数集まり、回を重ねるごとに「顔見知りの方が増えて、一緒にお茶を飲んだり、おしゃべりができて楽しい」と好評です。会のお世話役は、ボランティアサポーターに登録しているメンバーや、こ～ぽ委員会の皆さんです。同じ地域で生活していて、互いに顔の見える関係づくりができるので、参加する方々も安心できるようです。ぜひお近くの会場に、お気軽にお立ち寄りください。



▲三神峯NTT住宅の借上げ公営住宅での「ふれあい喫茶」

【連絡先】〒981-3112
仙台市泉区八乙女4-2-2
（生活文化部内）
TEL 022 (218) 3880
受付時間／月～金曜日9:30～18:00
（土日祝日を除く）
【E-mail】sn.mfukushinet@todock.jp
【URL】http://www.miyagi.coop/support/shien/volunteer/



津波復興支援センター

きめ細かな支援で「復幸」を目指す

●震災から2年が経ちましたが、現在の支援状況を教えてください。

センターには6人のスタッフが常駐し、自立復興のお手伝いに取り組んでいます。仙台市宮城野区、若林区を中心に、1日に15～30人集まる一般ボランティアとともに畑のすき返しやビニールハウス再建、部分倒壊家屋の整理、緊急引越し等、まだ残る震災の傷跡の復旧活動を続けています。仮設住宅や在宅・みなし仮設にお住まいの方々に地域資産としての手工芸品製作サポートも行っていて、材料を全国から募る窓口と販売管理の機能を担っています。また、牡鹿半島から南相馬市にかけての支援過疎地域に向けても、定期的に生活物資バザーや季節行事の主催・共催を実施。被災された方々にとっては、全国の非災害地域の皆さんとの双方向のコミュニケーションが大きな支えになっています。

●在宅避難者への支援も重要視しているのですね。

震災時、宮城野区岡田地区では、自宅で津波をやり過ごされた方々は避難できず孤立無援状態でした。そのため、在宅避難者はいまだに疎外感を抱えながら、現在も決して安全とは言えない地域にお住まいです。センターでは、震災前の生活に戻ることに加え、安全が保障されることこそ「復幸」であると考え、津波シェルターの設置などを発案しています。実現にはまだ時間がかかりますが、被災地の現状や課題を全国に向けて提唱しながら、必要とされる支援を続けていきたいと考えています。



▲津波復興支援センター代表の阿部哲也さん
「今後も被災地のかいりした気持ちを修復しつつ、全国と連携した民間ならではのサポートを継続していきます」

【連絡先】〒983-0003
仙台市宮城野区岡田字南在家110-6
TEL 022 (259) 0731
受付時間：水～日曜日10:00～16:00



東北学院大学 災害ボランティアステーション

若い力とともに、地域に根付いた継続的な支援を展開

●学生の行動力と他大学からの支援を活かすための拠点ですね。

震災直後、東北学院大学では、学生たちが自らの意思で自転車などを使って避難所や被災地でボランティア活動を開始していました。その一方で大学側には、首都圏や関西圏の大学から支援が入り始めていたのです。その中でそれらの大学のボランティア支援のノウハウを活かし、学生がより活動しやすいように様々な支援を行う「災害ボランティアステーション」を開設したのは2011年3月末のことでした。

●活動に参加した学生と被災者は現地でつながっているのですね。

仙台市内の仮設住宅や借上げ民間賃貸住宅入居者のコミュニティづくり支援などを継続して行っています。お互いの絆を深めるために交流会を設け、様々な組織と連携を取りながら支援活動を続けています。

2012年4月より、東北学院大学が主体となってさらなる連携の仕組みづくりを目的に宮城県の全大学が参加する「復興大学災害ボランティアステーション」が開設されました。各市町村のボランティアセンターなどと連携しながら、ボランティア活動をしたい学生と地域支援ニーズのマッチングを行っています。



▲東北学院大学学長室事務課の其田雅美さん
「これからも可能な限りご要請をお伺いし、復興の力になれるよう継続して活動していきます。下記ウェブサイトから登録・募集申込可能です。どなたでもお気軽にお問合せ下さい」

【連絡先】〒980-8511
仙台市青葉区土樋1-3-1
大学院棟2階26教室、27教室
TEL 022 (264) 6521
受付対応時間：平日11:00～16:00
【E-mail】tgvolu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
【URL】http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/volunteer/



公益財団法人 宮城県国際化協会 (MIA)

海外出身者の皆さんとともに震災を乗り越え 支え合う地域を目指して

●宮城に定住している外国の方への生活支援を行っているのですね。

宮城県にお住まいの外国人は結婚移住者が多く、日常生活に困らないレベルの日本語を習得していただくためにMIAでは「日本語講座」を開講しています。日本語を身に付けていただいた方には、教育の現場で外国人の子どもへのコミュニケーション支援や、病院、役所などでの通訳、また災害時の通訳をしていただくなど、活躍の幅を広げられるよう後押ししています。

●震災時には、外国人のサポーターが活躍されたとお聞きしましたが。

震災の時には停電復旧後に、中国本土から安否確認の電話が多数寄せられました。その時、日本語の堪能な中国人の方がボランティアで業務のお手伝いをしてくださりました。沿岸部の避難所に足を運んだときにも、地域で長く暮らす外国人の方たちに案内していただき、被災した外国人の現状やニーズを的確に把握することができました。その後も県外で震災経験をお話いただくなど、主体的に復興に関わってくださっています。

宮城県に暮らす外国人の中には、地域に密着し、地域のために貢献したいと思っている方がとても多いので、MIAでは各々の得意分野を活かした自己実現はもとより、地域づくりのリーダーを担っていただけるよう多様な研修の機会も増やしていきたいと考えています。



▲MIA参事兼企画事業課長大村昌枝さん(右)と中国出身の中国語相談員小関一絵さん(左)
「MIAでは外国人の皆様からの様々な相談に応じるため、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語による『みやぎ外国人相談センター』を設置しています」

【連絡先】〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022 (275) 3796
FAX 022 (272) 5063
【E-mail】mail@mia-miyagi.jp
【URL】http://mia-miyagi.jp/



NPO法人 Switch (スイッチ)

心のサポートで学びたい、働きたいを応援

●Switchはどのような団体ですか。

Switchは、心のつまずきや心の病気で通院している方を対象に、働きたい・学びたい方へのサポートを、精神保健福祉士やキャリアコンサルタントなどが中心となって行っております。Switchという名前は、心のスイッチを押して、なりた自分を目指しチャレンジしようという思いを込めました。

●どのような支援を行っているのですか。

就労でも就学でも、徹底した個別支援を行っており、担当がじっくりとお話をしながら、その人の強みを活かした計画と一緒に考えます。就労であれば、求人情報を見て履歴書を書き、面接練習を経て就職を目指すという一般的な就職活動が基本です。WRAP(元気回復行動プラン) や認知行動療法など、心の回復のためのプランもそろえており、学生の就学・復学に向けては、自分らしさを取り戻すお手伝いもいたします。就労・就学後も継続したフォローアップをしています。そのほか、復職・再就職支援、中高生向け心の健康の授業、企業のメンタルヘルス研修など、幅広く行っています。働きたい・学びたいと思うすべての人が、自分らしくいきいきと生きられる社会を目指します。



▲NPO法人Switch理事長の高橋由佳さん
「ストレス社会の現代、大きな震災もあり、心の不調は誰にでも起こる身近なことです。元気な時の自分、なりた自分をイメージし、一歩進めるようお手伝いします」

【連絡先】〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡1-6-3
東口鳳月ビル602
TEL 022 (762) 5851
平日10:00～16:00
【E-mail】info@switch-sendai.org



被災地障がい者センターみやぎ

復興に向けて、誰もが安心して暮らせる、
災害にも強いまちづくりを

●震災直後から、被災した障がい者へのサポートを開始したのですね。

震災直後から、直接避難所を回り、障がい者が困っていないかどうか聞き取り調査をしながら全国から集まった物資を届け、人的支援も行いました。震災当初は指定避難所へ行きましたが、遠慮もあり「トイレに行きたい」「寒い」など声をあげることができず、そこでの生活はとても困難でした。実際に障がい当事者は在宅避難や親戚などを頼って一時的に避難する方が多かったようです。その後プレハブ仮設住宅もバリアフリーの設備が十分でないことから、借り上げ民間賃貸住宅などへ入居する方が多く、障がい者の避難状況を把握するのはとても難しくなっています。環境が変わり、慣れない所での生活は孤立し易く、助けを求める声も聞こえず支援が行き届かなくなることが心配です。

●今後は生活を考える支援活動が必要になりますね。

震災を経験して、障がい者も地域の生活者の一員として、普段から顔の見える関係をつくること、地域での人と人とのつながりが大切だと痛感しました。当センターでは、障がい者本人や家族からの相談を受け付けています。今困っていることについてじっくりとお話しをお聞きし、一緒に解決に向けて取り組んでいきたいと思っています。当事者自らが「声をあげる」ことで、どんなサービスや制度があったら暮らしやすいかを考え、障がいがある方もない方もともに元気に暮らせる「まち」をつくっていきましようと呼びかけています。



▲被災地障がい者センターみやぎ代表の及川智さんと、お話しを伺った当事者スタッフの井上朝子さん（写真右）
「宮城県内の障がい者支援を行っている14団体が集まり、東北関東大震災障害者救援本部およびNPO法人ゆめ風基金のバックアップを受け、被災した障がい者の救援活動を行っている団体です」

【連絡先】〒986-0861
石巻市蛇田字中埠37
TEL 022 (746) 8012
FAX 022 (248) 6016
電話受付時間
月～土曜日 10:00～17:00
【E-mail】teesaanangel@yahoo.co.jp



みやぎ手話工房フロムハート

聞こえる人と聞こえない人の間に
バリアがない社会を

●「手話教室」を開催するようになった、きっかけは。

聴覚に障がいがあると、情報を得るまでにタイムラグが生じることがあります。この「情報バリア」をなくすため、2008年に手話工房フロムハートを発足させました。手話教室は、ろう者が日常的に使う「日本手話」を正しく普及させることを目的に2009年からサポセンを会場に開催しています。これまで約100人の方が受講しています。老若男女、聴覚障がいの有無を問わず、誰でも受講できます。

●聴覚障がいをお持ちの方が、震災の時に困ったことはありましたか。

震災の時に困ったことは、通信手段の中心であるメールやFAXが、発災直後不通になってしまったことです。避難所では、回覧される新聞を読んだり、ラジオの情報を教えてもらったりできましたが、在宅のメンバーは大変だったと聞きます。これからは、聞こえないことで困っている人がいることをもっとアピールしていかなければと思います。もし、聴覚障がいを持っている方、その周囲の方でお困りの事があれば、一人で抱え込まずにご相談ください。

今後の活動としては、手話の啓発イベントや講座を行っていきます。私たちの活動が聴覚障がいのことを理解する一歩となればと思います。



▲みやぎ手話工房フロムハート代表の工藤豊さん
「今回のインタビューでは、テレビ電話による手話通訳、筆談パッドでの対談ができる、遠隔通訳支援端末を使用しました」

【連絡先】〒980-0811
仙台市青葉区一番町4-1-3
レターケースNo.156
FAX 022 (268) 4042
【E-mail】deaf-mute-masakari@r5.dion.ne.jp
【URL】http://www.k5.dion.ne.jp/~masakari/



仙台グリーフケア研究会

悲しみを語り合える場がここにあります ～「わかちあいの会」～

●「わかちあいの会」は、どんな“会”なのでしょう。

2006年から2ヶ月に1回、自死、事故死、病死、災害死など様々な原因でかけがえのない方を亡くされた方々が語り合う“場”を「わかちあいの会」として開いてきました。震災以後、仙台にて月1回第3土曜日に定期的に開催。大切な人を亡くされた方のグリーフ（悲嘆／深い悲しみ）を少しでもともにわかちあうことが出来ればと、現在、石巻、気仙沼、岩沼でも開催しています。

わかちあいの会は、「聞いたことを他人に話さない」「聞いたことに批判やアドバイスをしない」「無理に話をしなくてもいい」などのルールを設け、大切な方を亡くされた方が、「なかなか話せない」「話をしてはいけないのでは」「誰も理解してくれない」など自問自答し、言葉にできずにいる心の内を話すことができる場所、安心して悲しみを語り合える場です。

●子どものためのプログラムもあるのですね。

あしなが育英会との共同開催の、子どものためのワンディープログラムは、喪失体験のある子どもたちが集まり、お話ししたりゲームをしたり、他の子どもやスタッフ（ファシリテーター）と心を通わせ、悲しみをわかちあう場です。（この活動は、2013年4月からNPO法人子どもグリーフサポートステーションに移行します）



▲仙台グリーフケア研究会代表 滑川明男さん
「気持ちを言葉にすることで楽になったり、気づいたりします。予約もいりませんので、多くの方に参加してもらいたいです」

【連絡先】〒980-0811
仙台市青葉区一番町4-1-3
レターケースNo.85
TEL 070 (5548) 2186
【E-mail】griefoffice@gmail.com
【URL】http://www.sendai-griefcare.org/
http://blog.canpan.info/grief/



仙台傾聴の会

あなたの心に寄り添い、じっくりとあなたのお話をお聴きします

●震災後は、「傾聴」という言葉を良く耳にしますね。

傾聴とは、相手の話を否定せず、ありのままに受け止め一生懸命話を聴くことです。震災前は、一人暮らしの高齢者の方のお宅へ伺っての訪問傾聴や高齢者施設での傾聴活動を行ってきました。震災後、3月末からは宮城県医師会から依頼を受け避難所での傾聴活動でした。大変な被害だったわけですから、言葉にならないのは当然です。無理に話を聴きだすのではなく、その方のそばに座らせていただいて、気持ちを受け止めることを心がけました。

●どんなところで、傾聴活動を行っているのですか。

現在は、仙台市内のあすと長町仮設住宅、扇町1丁目公園仮設住宅で活動しています。参加された方々から「ここに来て、話をするのが楽しみだ」と言っていたき、回を重ねるごとに、みなさん笑顔になってきたのがうれしいですね。

孤立死を防ぐためにも、このような場所は大切なのです。震災後、誰かとゆっくり話しがしたい、悩みを聴いて欲しいという方々のために、毎月第1土曜日は仙台市福祉プラザで、毎月第1月曜日は仙台市市民活動サポートセンターで「傾聴茶話会」を開催しています。参加無料で個別対応いたしますので、どなたでもお気軽にご参加ください。



▲仙台傾聴の会代表の森山英子さん
「被災者の方々の話を聴く事で、少しでも前に進み、自立していけるようお手伝いしていきたいと思っています」

【連絡先】〒980-0811
仙台市青葉区一番町4-1-3
レターケースNo.20
TEL&FAX 022 (343) 9705
TEL 090 (6253) 5640
【E-mail】moriyama-e@tulip.sannet.ne.jp



NPO法人 宮城県断酒会

お酒で悩み、苦しむ人やその家族の方々を支援します

●「断酒会」の活動を教えてください。

「酒を断つ」の文字通り、アルコール依存症など酒害からの回復を目指し、社会人として再び新しく生き直す手助けをしています。当事者やその家族の方々が集まり、お互いの体験談を語り合う例会を行っています。体験談は、「言いつばなし」「聴きつばなし」で、聴いたことはその部屋に置いていくことで、秘密も守られます。県内各所で毎週曜日を決めて開催していますので、お近くの例会会場を知りたい方は、ご連絡ください。このほか、治療後のリハビリのための入居施設として「キャンパスどんぐり」。仕事復帰のための軽作業や就労支援を行う「ワークしんせい」も運営しています。アルコール依存症専用治療病棟を持つ東北会病院など医療機関とも連携しながら活動しています。

●当事者や、家族からの相談にも応じてくださるのですか。

当事者は、なかなか相談しにくいものですが、アルコール問題は、飲酒運転やうつ病、仮設住宅での孤独死の引き金にもなりかねません。近くにいる家族の方々も一人で抱え込まずに、気軽に電話でご相談ください。アルコール依存症の回復には、断酒会など自助グループが催す会に参加し、経験者の話をじかに聴き、肌で感じるのが効果的な治療法だと言われています。断酒会では、個々のケースに合わせて、ステップを踏みながら回復までのお手伝いをしています。



▲宮城県断酒会副理事長の敦賀眞一郎さん
「アルコール依存症に関しては、まだまだ社会の偏見もあり、市民の方々の知識や情報が少ないのが実情です。断酒会では、正しい知識をもっといただくための市民セミナーを開催予定です」

【連絡先】〒980-0821
仙台市青葉区春日町4-1
TEL 022 (214) 1870
FAX 022 (738) 7181
【E-mail】miyagidansyu@yahoo.co.jp
【URL】http://www.15.ocn.ne.jp/~miyadan/



NPO法人 宮城県断酒会

お手玉に笑いあり、遊びを通じて心を明るく元気になろう

●どのような活動をされているのですか。

2008年から、伝承お手玉遊びの普及と、新しい技を創作し平成版お手玉として紹介をしているグループです。昔懐かしいお手玉遊びは、童心に返って無心になって楽しめます。たくさんの種類の遊びがあり、はじめはぎこちない動きでも何度も手に触れることにより、しだにお手玉が手に馴染んできて、思う通りに回ってくれます。うまくできたときには、自然に笑い顔や笑い声が生じ、やればやるほど楽しくなる不思議な魅力がある遊びです。

●なぜ、被災地で支援活動を始めたのですか。

震災後は、若林区荒浜、日辺、山元町、多賀城市の仮設住宅などに手作りのお手玉を持参して出向き、お手玉遊びと一緒に「笑い」と「元気」を届ける支援活動を行っています。震災のあと、なんとなく気分が晴れない方、引きこもりがちな方にも、気分転換にお勧めしたいです。『リングの唄』の曲に合わせてリズムカルにお手玉を回す動作は、体全体を使うので良い運動にもなります。お手玉遊びを通して、心が明るくなり、少しでも前向きに生きる元気が生まれてくることを願って、被災された方々と一緒に、おしゃべりをするお茶っこのみタイムも設けながら、お手玉の伝承活動を続けていきたいと思っています。



▲おてだまサークルたんぽぽ代表の菊池治枝さん
「お手玉遊びは、笑顔と呼ぶ魔法の遊びなんですよ」

【連絡先】TEL&FAX 022 (219) 8105



NPO法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク

仙台の子育て家庭をサポートします

●震災直後から、子育て家庭にどんな支援をしてきたのですか。

せんだいファミリーサポート・ネットワークは、仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台(以下のびすく仙台)を管理運営し、子育てが安心してできるよう総合的な支援を行ってきましたが、震災直後は子ども向けの物資の受け入れ先の一つとして、物資の提供や要望等のお問い合わせが多く寄せられました。2011年9月には、子育てファミリーのための地震防災ハンドブック「大切な人を守るために 今できること」を発行しました。のびすく仙台の利用者に行ったアンケートから、災害に関する不安や必要な備えなどの声を多く盛り込んだ内容です。震災後に初めて仙台に越えてきて不安を抱えている方も多く、「大丈夫だよ、何とかなるよ」ということを伝えたかったのです。

●福島から避難してきた親子の支援にも力を入れているんですね。

2012年2月からは、福島から避難されてきた方向けのサロンを開催し、同じ場所から避難し、同じ不安や悩みを抱えた方同士が話せる機会があることが重要だと感じました。このサロンは、これからも月1回のペースで行っていきます。また、これから働こうと思っているお母さんのために就職に役立つ冊子の作成、ワークショップ開催を予定しています。働かなければならないが、まず何から取りかかったらよいか分からないというお母さんが多いように思いますので、就職や職場復帰を考えているお母さんのサポートを行います。



▲のびすく仙台スタッフ三浦三恵子さん
「子育てファミリーのための地震防災ハンドブックが必要な方はご連絡ください。のびすく仙台では、他にもさまざまな企画がありますので、お気軽にお問合せください」

【連絡先】〒980-0803
仙台市青葉区国分町3-8-17
日東ハイツ204
TEL&FAX 022 (714) 2088
【URL】http://sefami.sakura.ne.jp/sefami/index.html



一般社団法人 マザー・ウイング

ふくしまママの会 きびたん's (ず) いずみ

●震災の影響で福島県から仙台市に転入してきた乳幼児親子向けのサロン「きびたん's」を泉会場にて開催しています。リフレッシュに、おしゃべりをしに、ママ友作りにいらしてみませんか?お楽しみイベントもあります。毎月開催予定ですが、日程や会場についてはお問い合わせください。

◎泉会場:10:30~12:30

◎参加費:無料 15組

【連絡先】仙台市子育てふれあいプラザのびすく泉中央
TEL 022 (772) 7341
連絡可能時間帯:10:00~17:00
月曜・祝日の翌日を除く



ふくしまほっこりカフェ 実行委員会

ほっこりカフェで、不安な気持ちや 悶々とした気持ちを話ませんか?

●東日本大震災・東京電力原発事故の影響で仙台市付近に移住されてきた方々で、困っていることや知りたいことなどを持ち寄ってお話する会です。お茶とお菓子を囲みながら、なんでも気軽に話しましょう。お子さま連れの参加も歓迎いたします。

◎日 時:毎週火曜日10:00~12:00

◎会 場:ハート&アート空間ビーアイ

◎参加費:無料(要事前申込)

【連絡先】〒980-0822
仙台市青葉区立町20-11ミカミハウス2階
TEL 022 (262) 2969
FAX 022 (262) 2975
【E-mail】zoukabako@gold.ocn.ne.jp

広がる・深まる支援を伝える

「サポセンかわら版」は、2011年度に引き続き、東日本大震災で被災された方々に向け、支援活動やお悩み・お困りごとのご相談、心のケアなどの活動を行う市民活動団体・NPO、企業などの情報をお届けしてきました。毎月仙台市の「復興定期便」に同封し、仙台市内のプレハブ仮設住宅や借り上げ民間賃貸住宅などの入居者に向けて約1万部発行しています。

2012年度は、表紙に「支援の輪」のコーナーを設け、被災地で直接活動をしている団体の代表からお話をお聞きし、その活動の様子を具体的に紹介してきました。「記事をご覧になった方から、ご相談を受けました」、「催しにご参加いただきました」というご報告も受けています。

直接、被災された方々に情報をお届けすることで、復興支援活動を継続的に行っている方々や団体がいることを知っていただき、被災者と各団体の活動をつなぐ役割を果たせるよう努力してきました。

「サポセンかわら版」は、ともに寄り添い、助け合って復興へ向けて進んでいきたいと思いますというメッセージ。これからも「支援の輪」が広がって、復興を遂げた市民だれもが「仙台のまちに暮らして良かった」と実感できる日が一日も早く来ることを願い支援情報をお届けしていこうと思います。

「支援の輪」掲載団体一覧

掲載年月	団 体 名	支援・キーワード	掲載号
2011年			
11月	一般社団法人 パーソナルサポートセンター	生活再建・就労	19号
12月	一般社団法人 ReRoots (リルーツ)	生活再建・農地再生	20号
2012年			
1月	NPO法人 市民福祉団体全国協議会復興支援事務所	福祉・サロン	21号
2月	仙台傾聴の会	こころ	22号
3月	被災地障がい者センターみやぎ	障がい者・福祉	23号
4月	東北学院大学 災害ボランティアステーション	ボランティア	24号
5月	NPO法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク	こども	25号
6月	NPO法人 POSSE仙台支部	生活再建・就労	26号
7月	NPO法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク	産直・サロン	27号
8月	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 中核支えあいセンター	みなし仮設・サロン	28号
9月	みやぎ手話工房フロムハート	聴覚障がい者・福祉	29号
10月	仙台グリーンフケア研究会	こころ	30号
11月	公益財団法人 宮城県国際化協会 (MIA)	国際・外国人	31号
12月	NPO法人 宮城県断酒会	健康・こころ	32号
2013年			
1月	NPO法人 Switch (スイッチ)	福祉・こころ	33号
2月	みやぎ生活協同組合 ボランティアセンター	ボランティア・サロン	34号
3月	仙台津波復興支援センター	生活再建	35号

(注) 第Ⅱ章「支援の輪」は、2011年11月から2013年3月に発行された「復興支援活動情報サポセンかわら版」に掲載されたものを一部加筆して再掲しています。

なお、公益財団法人 共生地域創造財団、一般社団法人 パーソナルサポートセンター、支援者のための支援センター TOMONY、お手玉サークルたんぽぽの各団体については、改めて取材した記事を掲載しております。



情報発信をデザインする

被災地の状況は日々変化しています。被災地から離れたところでは、震災の風化、忘却の傾向にあるようです。それに対応するにはどうすればよいのか、サポセンでは、被災地内外から各地に向けて情報発信をしている団体とともに、今後の情報発信のあり方について考えました。

伝えることで復興に貢献

復旧・復興作業を行うボランティアの姿や、県内外から駆け付け支援活動を行うさまざまな団体の様子を広く多くの人たちに伝えたい。情報発信することの重要性に気付いた若者たちがいました。2つの団体の活動を通して、伝える支援のあり方を探ってみます。

震災に向き合い 被災地の“今”を伝える学生記者

情報ボランティア@仙台

情報ボランティア@仙台は、主に仙台の大学に通う学生で構成され、地元紙・河北新報社の協力のもと2011年4月末より被災者やボランティアが必要とする情報、復興に取り組む人・団体取材しブログなどで発信しています。学生共同代表の下澤大祐さんに、活動の様子を伺いました。

●被災地は第2のふるさと

下澤さんは県外出身で、大学進学のため仙台に来たのは、震災直後の2011年4月のことでした。「復興に役立ちたいと思っていましたが、何事もなかったかのような仙台の街中、普通に始まった大学生活…どうしたらいいのかわかりませんでした。7月に復興支援団体とのマッチングイベントに行き、そこで情報ボランティア@仙台のブースを訪れたのがきっかけで、参加することにしたのです」。

現在活動している学生は約20人。下澤さんと同様、復興関連イベント参加や、学生同士誘われて活動を始めた方が多いとのこと。また、河北新報社のインターン経験者が期間終了後に参加することもあるそうです。それぞれペースは違いますが、だいたい月2回ほど取材に出かけています。活動の中心は1・2年生が担うことが多いですが、就職活動や卒業論文で忙しい3・4年生も合間を見つけて活動を継続しているそうです。

活動のやりがいを感じると「取材に行くと、その土地やその人のファンになるというか、応援したくなるんです。まるで自分のことのように感じたりもします。ふるさとが増えたような、そんなつながりを構築できるのいいと思います」と、いきいきとした声と表情で答えてくれました。

●復興へのチャレンジを後押ししたい

はじめはボランティアセンターに張り付き、ボランティア情報や被災地のニーズを伝えてきましたが、時間の経過による状況の変化に伴い、伝える情報も被災した住民の声や、復興へのチャレンジを伝えることなどに変わってきました。また、下澤さんたち書き手側にも、記事執筆に慣れ「伝えることで、読んでくれる人の励みになったり、『やってみよう』という気持ちを後押ししたりといった、先のことを意識するようになった」と、活動を継続していく中で変化が表れているそうです。

取材は、河北新報の記者に同行して行うのが基本ですが、自分たちで取材先を見つけアポイントをとることも増えてきました。記事は河北新報の記者のチェックを受けた後、媒体に掲載されます。最近は学生たちで各自の記事をチェックしたり、取材時に感じたこと・迷ったことなどについて話し合い考えるミーティングを毎週開くなど、独自の工夫も始めたそうです。

「2012年夏ごろからブログのアクセス数が低下したり、震災の風化は感じています」と下澤さん。記事の内容や更新頻度などでブログの魅力を高めたり、シリーズ記事を電子書籍化し後世の防災に活かすといったことで被災地への関心を薄れさせないような取り組みを進めていく考えです。

活動を継続できる環境と 仕組みをつくる

NPO法人 ボランティアインフォ

震災以降、日本各地から多くのボランティアが被災地に訪れています。そのような中、NPO法人ボランティアインフォはインターネットや場づくりを通して、ボランティアを求める人とボランティアをつなげ続けています。

●ボランティアをより身近に

ボランティアインフォは、インターネットでボランティア情報の発信を行いながら、地域ニーズに対して団体やボランティアをつなぐ活動を行っています。Yahooボランティアなどと連携して広く被災地の情報を届けると同時に、個人のスキルを活かして被災地に関わるボランティアを募集するなど、より多くの方が復興に関わり日本でのボランティアがより身近なことになるよう取り組んでいます。

団体の活動はインターネットだけに留まらず、実際の場づくりも行っています。震災直後は仙台駅でボランティア情報を提供する「ボランティア情報ステーション」を運営。「荒吐・ARABAKI ROCK FESTIVAL」(2012年4月開催)や「ap bank festival」(2012年7月、8月開催)などのロックフェスティバルでは、来場する若い世代に向けてボランティア情報を伝えるブースの運営を行いました。

そして東日本大震災の1年後となる2012年3月11日

には、「3.11東日本大震災・市民とボランティアのつどい」を開催し40を超える支援団体が出展。支援団体の見本市のようなこの企画には2,000人以上の来場者が訪れ、団体の活動体験(買う、知る、食べる)を通して、東日本大震災発災から1年の節目において一人ひとりが継続できる支援を考える場となりました。

●ボランティアのすそ野を広げる

2012年9月、「AIR JAM」という東北初開催のロックフェスティバルにて、多くの団体と協働でボランティア企画を運営しました。募集に応募してきた約150人のボランティアの多くは、東日本大震災のボランティアに興味があっても一歩踏み出せなかった人たちでした。そこでボランティアインフォは、ボランティアに小さな成功体験を重ねさせてボランティアの楽しさや重要性を伝え、ロックフェスティバルの成功とともにボランティアマネジメントを成功させました。

このようにボランティアインフォは、情報発信を続けると同時に人々がリアルに交わる場を重要視しています。それは「ボランティア」を通して、自発的に社会や地域に関わる人のすそ野を広げ、長期的に復興に関わる人材の増加を目指しているからです。事実、「AIR JAM」でボランティアを行った方の中には、被災地を支援するためのグループをつくるなど、ボランティアによる気づきが次の行動につながりました。

今後はフェスティバルでつながった「ap bank」と協働で、「ap bank東北ボランティアプログラム」もスタートします。また新しい形でボランティア観が発信されることでしょう。



▲学生ミーティングの様子

情報ボランティア@仙台

【代表者】学生共同代表 下澤大祐

【連絡先】TEL 022 (211) 1158

(河北新報社編集局デジタル編集部内)

【E-mail】kahoku_volun16@yahoo.co.jp

【ブログ】http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/

【Facebook】https://www.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

【twitter】https://twitter.com/#!/voochan

NPO法人 ボランティアインフォ

【代表者】代表理事 北村孝之

【連絡先】〒980-0014

仙台市青葉区本町1-12-12

GMビルディング2階

【E-mail】info@volunteerinfo.jp

【URL】http://volunteerinfo.jp/



▲AIR JAMボランティアの活動風景

震災の記憶の風化を考える

支援のかたち ～被災地からの情報発信をデザインする～

2012年12月21日(金)15:00～17:00@せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア



▲NPO法人 HUG
代表理事 本間勇輝さん

世の中を良くするために頑張っている人や団体を、情報発信等のコミュニケーション分野で手助けする「NPO法人HUG」。震災後、復興のために頑張る人々を対象とした業界新聞「東北復興新聞」を発刊し、関係者間の情報共有を促進するとともに、被災地外へ情報を届け、継続したより良い支援の実現を目指しています。

※ゲストトークの部分は、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」のサイトよりアーカイブをご覧ください。アドレスはこちら
→<http://recorder311.smt.jp/movie/24761/>



▲東北復興新聞

NPO法人 HUG
【連絡先】〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-10-9-8F
【E-mail】info@h-u-g.jp
【URL】<http://h-u-g.jp/>

ゲストトーク

『東北復興新聞』の発行を通して、東日本大震災の被災地からの情報発信に取り組む、NPO法人HUG代表理事の本間勇輝さんをお招きし、これまでの活動紹介も交えながら、これからの支援のかたちや情報発信のあり方についてお話しいただきました。

震災関連のメディア報道は激減しており、自ら情報を取りに行くというごく一部の関係者のみが関心を持っているような状況で、東京と被災地を行き来していると大きな隔たりを感じます。風化に対抗するには、何かを変えていかなければいけないでしょう。

『東北復興新聞』や『TOMORROW』の発行・運営、スタディツアーや大槌町・大船渡市におけるコミュニティ紙の発行支援などを行って来たHUGとして、「風化は止められない」という前提のもと、ではどのような情報発信をしていけばいいのか、4つの仮説を立ててみました。

①復興・被災地とは別の文脈で情報をコンテンツ化する

「復興」「被災地」だけで受け手の興味を引くことはもう難しくなっています。しかし、それに何かを加えたり、違う文脈を用いることで被災地の素晴らしい取り組みを伝えることができます。例えば「日本の地域の未来」として、各地で実践されているまちおこしの良い事例とともに発信していくなど、新しい言葉・新しいコンテンツを作ることを考えています。

②メディアが取り上げ易い切り口を探す

今東北で起きているのは単なる復興ではなく、日本の未来をつくる社会変革です。1つ目の仮説と関連しますが、タイミングや新しさをアピールできれば、マスメディアと絡め広く発信することは可能です。

③人やストーリーによる訴求

被災地で活躍するリーダー、つまり社会変革に挑むリーダーたちを「この人がカッコイイ、面白い」と、人・ストーリーにフォーカスして取り上げ、被災地だけでなく「僕らの明日」として、被災地外へアピールします。

④ボランティア経験者等のコアターゲットへのアプローチ

関心が高いコアターゲットへアプローチするのも手だと思います。被災地では、ボランティア経験者を「プチ市民」として、一緒にまちづくりをしていくなど、実際にさまざまな取り組みを始めているところがあります。

どうしても「自分が伝えたい情報をいかに伝えるか」を考えがちですが、被災地外へ発信するとなると、「受け手の彼らは何を聞きたいのか?」と探るところから始めて、「自分が伝えたいこと」とマッチングしながらコンテンツを作ると良いのではないのでしょうか。少し発想を転換させて、新しい切り口で発信することが、マスメディアや多くの人を引き付けるポイントになるのではと考えています。



グループセッション

2つのテーマに沿ってグループを作り、「自分ならどのように情報発信するか」を、参加者の皆さんに考えていただきました。グループセッションの中で出てきた“気づき”を一部ご紹介します。

テーマ1「風化と被災地からの情報発信」

- 受け手が元々持っている興味の対象から入り、震災・被災地へと関心をつなげていく。
- 情報発信者も復興の担い手となり活動しつつ、発信していく。
- 我が事化=自分のこと、自分と近いもの・関連性があるものと捉える。震災を「ひとごとではない」と捉えてもらう。被災者を身近に感じてもらう。
- 一方的な発信ではなく、伝える相手を想像する。相手を知ることから始めよう。

テーマ2「被災地コミュニティ内での情報発信・記録とその継承」

- 避難により、コミュニティがバラバラになってしまった。隔てている壁を壊すために情報を伝えていく。
- 「辛かった」よりも、「楽しみ・これから」を伝える。
- 読者からの反応がないからといって、届いていないわけではない。継続が大事。
- 記録を、どのように活用していくか。防災教育などに、“活用していくこと”が大事。

「風化は止められない」という前提のもとで、どのように情報発信していくのかを考える場でした。ゲストトークやグループセッションから得られた答えは、「大事なのは、いかに“伝えたい情報ではなく、相手の聞きたい情報”を発信するか」ということです。また、情報発信はあくまで手段のひとつ。「誰に」届け、届けた先に「〇〇な行動をとってほしい。〇〇な状況になってほしい」という目的が重要で、そのために必要な情報発信手段を選ぶのだということも改めて確認できました。



▲グループセッション(テーマ1)



▲グループセッション(テーマ2)

被災地から情報を発信すること

“地元紙”として「寄り添い、伝える・育てる」

河北新報社 編集局デジタル編集部

河北新報社は「被災地の新聞社」という“地元紙”の立場から「復興したと思えるその時まで、市民に寄り添い続け、伝え続ける」と決めているそうです。風化と風評被害という、“2つの風”にも立ち向かい続けています。

デジタル編集部は、主にネット上で市民が情報発信しコミュニケーションを活発にする場である「地域SNSふらっと」を運営している部門です。震災後は、ボランティア団体の情報・被災地からの情報を一覧化できるサイト「絆」も開設しました。

寄り添い続け、伝え続けるために、人を育てる取り組みも始め、“復興のため役立ちたい”という学生たちが、情報発信という方法で復興に関わることを、報道のプロとしてサポートしています。具体的には、取材や記事執筆のスキルや発表の場の提供です。学生たちは、実際に被災地へ行き被災者と触れ合うことで得るものに加え、取材し記事を書くことでコミュニケーション力・構成力・文章力などを身に付けています。「これらの力は、記者に限らず、社会的に必要なスキルです。今後彼らがどこに就職するにしろ決して無駄にはならない。記者にならないから必要ないなんてことはないんです」と、デジタル編集部長の八浪英明さん。

次の世代を担う後継者を企業・大学・地域ぐるみで人材育成する取り組みは、大震災をきっかけに大きく動き出しています。

主役はコミュニティ
仙台・宮城・東北のSNS「ふらっと」



▲「地域SNSふらっと」は、コミュニティ型のWebサイト

【連絡先】河北新報社
編集局デジタル編集部
〒980-8660
仙台市青葉区五橋一丁目2-28
TEL 022 (211) 1158
FAX 022 (211) 1157

【URL】地域SNSふらっと
http://flat.kahoku.co.jp
絆～手を持ち、前に！～
http://flat.kahoku.co.jp/sub/volunteer/index.htm

離れ離れになった町内の皆さんへ

西原（にしっぱら）新聞編集室

宮城野区中野地区の西原町内会の住民は、震災と津波被害により避難所からプレハブ仮設住宅や借り上げ民間賃貸住宅などへの生活を余儀なくされています。「バラバラになった元の町内会を何とかつなぎ止めることができないかだろうか」という町内会長さんの話を聞いて、「毎月1回新聞を作って町内会の人たちに配りましょう」と提案したのが、「仙台沿岸部まちづくり協議会」の佐藤研さんでした。

さっそく町内の女性8人に呼びかけて編集部を結成「新聞」づくりが始まりました。記事の情報性というよりは、「元気だよ!」という近況報告とともに、同じ町内だった人の息づかいや、顔が見えるというのが一番の目的です。だから記事の主役は西原町内の人たち。同じ町内の方がお話を聞きして紙面をつくるというのが基本的な編集方針です。文字も大きく紙媒体での発信方法は、高齢者が多いこの地区の住民にとっても喜ばれました。この新聞があったから、これまでのつながりを保つことができ、町内の結束がさらに強くなったといいます。

今後は、復興住宅等への移転が進んで行きますが、町内会の意向を聞きながら、移転が落ち着くまでは発行し続けようと考えているそうです。住民の方々にとって、自分たちが住んでいた形跡が全くなくなることは寂しいことです。「自分たちが暮っていたという証が欲しい」西原新聞はその想いを一つ一つ拾い集め、記しているのかもしれない。これからも、毎月届く便りが心のよりどころになっていくでしょう。



▲2011年11月第1号から2013年3月で第17号となる「西原新聞」は、西原町内会住民に向けて150部発行

【連絡先】ラジオ3 FM76.2
(仙台沿岸部まちづくり協議会)
〒984-0065
仙台市若林区土樋103
TEL 022 (213) 2323
FAX 022 (213) 1123
【E-mail】762@radio3.jp

市民が記録した写真を後世に残す

NPO法人 20世紀アーカイブ仙台

震災直後の2011年3月下旬から画像の提供を呼びかけ、4月初め、インターネット上に「3.11市民が撮った震災記録Web」を開設。提供を受けた写真は、約18,000枚、写真提供者は約300人にもものぼりました。その中から、約150人の市民が提供した約1,500枚の写真を、震災記録集『3.11キヲクのキロク』として発行したのが、2012年3月のことでした。

4月からは、宮城県新しい公共の場づくりのためのモデル事業の認定を受け、「3.11震災の定点観測アーカイブ活動」を行っています。震災直後に撮った場所を再訪し、定点観測会を行い、せんだいメディアテークと共催で公開サロンを開催。震災の記録写真を撮影した市民の方々をゲストに迎え、震災後間もなく撮影された写真と、その後撮影された同じ撮影地の定点観測写真を、撮影者本人に紹介してもらい、今後の定点観測のあり方を参加者の市民の方々と考えています。

また収集した写真を、広く多くの方々に見てもらい被災地の現状を知ってもらおうと「3.11キヲクのキロク 市民が撮った震災写真パネル展」を、せんだいメディアテークを皮切りに全国110箇所で開催。写真を通して、震災の記憶を語り継ぐよい機会となりました。

「震災は風化するものだとしたら、3.11に興味を持ち続け、後世に記録を残すことこそ、自分たちができる使命だと思っています」と、20世紀アーカイブ仙台副代表の佐藤正実さん。仙台市民の「記憶遺産」ともいえる震災のアーカイブを未来に語り継ぐ活動は、これからも続いていきます。



▲記録集の第2弾として、震災直後と1年経過した今とを見比べる『3.11キヲクのキロク、そして現在(いま)』を2013年3月に発行

【連絡先】NPO法人
20世紀アーカイブ仙台
〒983-0021
仙台市宮城野区田子1-11-2
TEL 022 (387) 0656
FAX 022 (387) 0651
【E-mail】npo@20thcas.or.jp
【URL】http://www.20thcas.or.jp/

「地域」の今を結びともに育つコミュニティ情報紙

震災復興地域かわら版「みらいん」編集部

「みらいん」は、震災の津波被害により住み慣れた地域を離れた方に地域とのつながりを感じていただき、仮設住宅などでのコミュニティづくりや生活再建を応援する情報紙です。

創刊準備号が発行されたのが2011年11月。当初はすべてがゼロからのスタートで、被災地区の現状や、生活再建に関わる情報を伝えるためにどうすればよいのか、被災者が欲しい情報をどうやって収集すればよいのか、その足掛かりをつくるのが非常に困難だったといいます。

手探りで編集が続く中、2012年4月頃から各地域に復興を考える団体が立ち上がり、復興を自分たちのものとして捉え始めた住民の姿を目の当たりにして、「読者の皆さんが自ら起こした活動や普段思っていることを吸い上げ、発信していこうという意識に変わりました」と、編集長の岡崎裕子さん。自主的な地域の動きや前向きな住民の想いを伝え、そこに住んでいる人たちが主役になる紙面づくりへと焦点が定まり、読者である被災地住民によって、「みらいん」の紙面は育てられてきたのです。

これまで、その時々々の旬の情報を取り上げ伝えてきました。今後も必要とされる情報を直接伝える媒体として、また復興へ向かう地域の記録としても「みらいん」が果たす役割は重要となっていくでしょう。



▲かわら版「みらいん」は、2011年11月に準備号を創刊。毎月1回、宮城野区版と若林区版はそれぞれ3,500部、太白区版は2,500部、合わせて約9,500部発行

【連絡先】協同組合みやぎ
マルチメディア・マジック
〒984-0011
仙台市若林区
六丁の目西町2-12
TEL 022 (390) 5755
【E-mail】kawara@mmmm.or.jp
【URL】http://www.sendai-mirain.com/

復興へ 情報発信による協働

サポセンでは、震災後被災地の状況や、被災地での支援活動の様子などを全国や市内に向けて発信してきました。今年度は、仙台市内で情報発信の活動をしているNPOや企業・他施設と協力し、市民とともにこれからの被災地からの情報発信のあり方を考える場をつくってきました。

●サポセンサロン「情報発信力を高める! 情報交換会」 2012年9月18日@仙台市市民活動サポートセンター

「被災地の情報発信力を高めるにはどうしたらよいか」をテーマとする話し合いの場として、サポセンサロンを開催しました。サロンには、マスコミからミニコミ、扱う媒体も紙からWebまでと多様な方々にお集まりいただき、活動を通じて感じていることや現状を共有し、意見を交換しました。その中で、次の3つの課題が浮かび上がってきました。



- 課題① 発災からの時間経過により、情報発信のかたちもこれまでとは違う、次の段階へ移行する必要がある。
 - 課題② 情報発信を行う団体同士の横の連携が欲しいが、それを構築していく場がない。
 - 課題③ 編集・デザインの技術や著作権・肖像権に関する知識など、情報発信する上で必要な知識や技能の共有をしたい。
- これらの課題を解決するため、継続して「情報発信」をテーマとした情報交換・交流の場を設けることになりました。

●「考えるテーブル支援のかたち」企画会議 2012年11月20日@仙台市市民活動サポートセンター

サポセンサロンから発展した「考えるテーブル支援のかたち」を、せんだいメディアテークの「3がつ11にちをわすれないためにセンター」との協働で12月21日に実施することが決定。再び、9月のサポセンサロン参加団体にお集まりいただき、テーマを掘り下げ企画を練り上げていく段階からご協力いただきました。



- 企画会議メンバー（50音順）
 - ・河北新報社 八浪英明さん
 - ・NPO法人20世紀アーカイブ仙台 佐藤正実さん
 - ・西原新聞 佐藤研さん
 - ・みらいん編集部 岡崎裕子さん
 - ・3がつ11にちをわすれないためにセンタースタッフ
 - ・サポセンスタッフ

●「考えるテーブル支援のかたち」開催 2012年12月21日@せんだいメディアテーク

「被災地からの情報発信をデザインする」というテーマで、広く市民も交えて考える機会をつくりました。

➡本誌P32～参照

今後も被災地からの情報発信は、復興を加速させる意味でも重要なテーマの一つとなってきます。続けて、皆さんと一緒にそのあり方や方法を考えながら、被災地からの情報発信に取り組んでいきたいと思っています。

市民活動支援施設としての役割

2013年2月22日に開催された「復興のひとづくりを考える報告会」と、震災復興2年目のサポセンの取り組みについてご報告いたします。また、「震災復興支援活動情報サポセンかわら版」に掲載してきた情報を一覧にして添えましたので、参考資料としてご活用ください。

- 参考資料
- 支援情報一覧
 - イベント・講座情報一覧
 - NPO・市民活動団体等による電話相談
 - 復興支援グッズ

IV

復興のひとづくりを考える報告会 ～仙台の復興支援とその人材に関して～

2013年2月22日(金)14:00～16:30@仙台市市民活動サポートセンター6Fセミナーホール

これからの復興の鍵は「ひとづくり」。住民、企業、NPO、行政など多様な主体と人材が関わることが、復興そして地域の力になります。そこで、地域の復興に取り組む団体の活動報告から、地域を担う人材、地域人材の育成や課題について意見交換を行い、課題解決のヒントを得るため報告会を開催しました。

活動事例報告

●被災地域住民からの地域づくり ー南蒲生町内会復興部 えんの会ー

南蒲生町内会は、仙台市宮城野区東部沿岸部にあり、今でも互助組織である「講(こう)」があるなど、「住民同士のつながり」を大切にしてきた地域でした。震災で津波被害を受け、仮設住宅や借り上げ民間賃貸住宅などへ入居せざるを得ない方もいて、コミュニティが分断されてしまいました。2012年1月に南蒲生町内会の中に「復興部」が結成され、現地再建や移転再建のための行政への要望とともに、自分たちの地域の良さや文化・歴史を見直し、もう一度盛り上げていこうと復興まちづくりに取り組んでいます。復興まちづくりに取り組んでいく上で、住民だけでは、まちづくりのノウハウや知識が足りていなかったため、まちづくり専門のNPOである都市デザインワークスにアドバイザーとして関わってもらっています。行政に要望していただくだけでなく、NPOや企業と連携・協力しながら、住民ができることは自分たちで主体的に取り組んでいきたいと考えています。

そして、ワークショップや話し合いを重ねるうち、「若い人の意見をもっと多く取り入れた方が良い」という声もあり、地域のために何かしたいという20～50代の若手で「えんの会」を結成し、勉強会やまちづくり活動を行っています。ほかの被災地でも同様だと思いますが、震災を契機に、そういった新しい人材をどう巻き込むか。新しい地域と一緒につくっていく仕組みをどうつくっていくか。それを考えていきたいと思っています。

●NPO・行政・企業による協働ネットワーク ー六郷・七郷コミネットー

コミネットは、2011年11月に設立された、被災された方の生活支援を行う官民協働のネットワーク組織です。コミネットでは、被災地外からの支援の窓口も担っていますが、ネットワーク組織のため専任者がおらず、事務局機能が弱いという課題がありました。そこで総務省・宮城県が設置した制度である復興応援隊を活用。復興応援隊2名を迎え、事業を行っています。応援隊には「六郷・七郷の今」ということで現地取材を定点観測的にを行い、インターネットを活用して情報発信をしてもらっているほか、事務局として支援情報の収集、コミネット参画団体の把握、会議運営などを担当してもらっています。今後は応援隊独自の事業企画・運営ができるよう育っていったらいいと考えているところです。

これから復興住宅に移れば、また多様なコミュニティが点在することになります。



▲報告者：吉田祐也さん

➡本誌 P12参照

【連絡先】南蒲生町内会復興部
えんの会
【E-mail】minamigamou@gmail.com
【URL】http://blog.canpan.info/okada/



▲報告者：鈴木誠さん

➡本誌 P6参照

【連絡先】六郷・七郷コミネット事務局
(若林区役所まちづくり推進課)
〒984-8601
仙台市若林区保寿院前丁3-1
TEL 022 (282) 1111
内線6136
FAX 022 (282) 1152
【URL】http://67comi.net/

新しいコミュニティのつなぎ役として、復興応援隊に寄せられる期待や需要は高まるとしています。息の長い支援が必要です。それに関わる人材の育成という意味でも、将来の地域の宝として、復興のまちづくりを担う応援隊は期待されています。

●地域の人材育成の今 ー公益財団法人 共生地域創造財団ー

共生地域創造財団は、ホームレス支援全国ネットワークと、西日本・東日本の生協が母体となり、震災後に設立しました。物資支援から始まり、今は被災された漁業者・農業者支援を行う産業復興、見守りなどの生活再建支援、就労支援・中間的就労の場づくりを行っています。

現時点での復興の担い手は、地域において何らかの要職に就いている方で、その人数は多くありません。多くの住民の方々が積極的に活動に踏み出せない理由は、「小さな実行」をする機会がなかったからです。いつも誰かがやってくれるとか、他人の意見にまかせてしまうというこの状況が、地域・コミュニティづくりに弊害があるのではないかと考えていたので、住民ニーズを実行する際には、多くの人を巻き込んで進めるように工夫しました。

つながりたいと思っても、祭りなどの“何か”がないとできないもの。それを手伝うのが私たち外から来た者の役割ではないかと思っています。地域を表示するというのは、もちろん地域の方々がやることで、それを手伝うのが関係者なのです。

「誰が地域を担うのか？」制度・既存の仕組みは、確かに必要ですが、10年20年先も継続してあるものではありません。もともと持っている住民のチカラをどう引き出すか。地域の範囲は小さくていいのです。今まで地域に出てこなかった人々が「小さな実行」をして、それを面に広げ、復興のコミュニティを目指していくことが大切です。

パネルディスカッション

●地域人材の役割と育成

鈴木(孝)：お三方とも、かつてコミュニティで育んできた様々な生活、人と人を支える関係性を復興させることに挑んでいます。まず1点目は、顔の見えるような範囲のつながりの中での復興・再生への挑戦。2点目は、地域の中の潜在的な人の力を引き出し、巻き込んだ住民参加型の地域づくり。3点目は、地域外とのつながり・連携を意識しての活動。4点目は、地域の自立をサポートし、自分たちの組織を自立化するためのイメージ戦略づくり。また、5点目として広域的な課題として、コミュニティをサポートする中間支援組織の必要性。そして最後に、今後支援の手が減少する中で、早い段階から地域が自立し持続する力を持つ必要があると考えられます。地域の持続性というのは、地域の課題を自分たちで解決していける能力を養っていくこと。地域の課題は非常に多様なので、行政との協働力も持続性には必要なことだと思っています。



▲報告者：範島一匡さん

➡本誌 P16参照

【連絡先】公益財団法人
共生地域創造財団
代表 奥田知志
TEL 022 (748) 6336
【URL】http://from-east.org/



▲コーディネーター
鈴木孝男さん

宮城大学事業構想学部助教
農村計画・地域計画について
研究。NPO法人まちづくり政策
フォーラムの代表理事、東北圏
地域づくりコンソーシアム推進
協議会の理事として、様々な協
働の場づくりを行い、復興まちづ
くりにも取り組んでいます。

仙台市市民活動サポートセンターの取り組み

2012年度、サポセンでは、「情報」「相談」「交流・連携」を柱とし、復興支援活動を行うNPO・市民活動団体をサポートし、被災者や被災地コミュニティとの「つなぎ役」として復興支援事業を行ってきました。震災から2年目のサポセンの取り組みをご報告いたします。

●情報を収集し、支援をつなぐ

震災から1年が過ぎると、支援のかたちも仮設住宅内でのコミュニティ形成のための支援活動に加えて、生活再建や就労などの個別の課題解決のための支援へと求められる支援も変化してきました。また外部からの支援が徐々に減りは始める一方で、被災地域の住民自らが復興のまちづくりを考える動きも表れてきました。

震災直後からNPO・市民活動団体が行っている復興支援活動を伝え、被災者一人ひとりの課題解決に役立つ情報を「サポセンかわら版」を通して提供してきました。支援活動団体から寄せられる情報の中から、被災者の問題解決に役立つ支援情報やイベント・講座情報、電話相談を中心に掲載。毎月仙台市の「復興定期便」へ同封し、仮設住宅に入居している方々へ直接届けています。

また、支援活動を行っている団体に対しては、被災地の復興状況、報告会・交流会・講座などの開催情報、その他活動に役立つ情報をホームページ、ブログ、ツイッターなどを利用して広く、個別に配信することに力を入れてきました。震災前から市民活動の広報手段として活用されていた「骨プロ」は、震災後も施設間を迅速につなぐ伝達手段として大きな役割を果たしました。

またインターネットでの情報発信に加え、ニュースレター「ぱれっと」を通じ、復興支援を行っている団体の活動を随時紹介してきました。2011年度に発行した報告書「3.11からの支援のかたち」と合わせて、被災地内外へ仙台市のNPO・市民活動団体の動きを発信する有効なツールとなりました。

●じっくり相談、コーディネートする

震災による環境や被災地の状況の変化から、団体によっては資金調達や組織・事業運営に課題が出始め、団体の活動を継続するための相談が多く寄せられるようになりました。そこで、サポセンでは日頃から行っている個別相談を強化。3階に相談コーナーとして、よりじっくり相談できるスペースを設けました。復興支援活動団体の運営に係る相談、団体の立ち上げ、法人格の取得支援、市民活動団体と被災地団体とのマッチング、企業の復興支援や社会貢献活動などの相談を行っています。

震災後は、NPO、地縁組織、行政、企業など各セクターを超えた支援活動が行われ、サポセンでもそれらの団体をつなぐ相談が多くなりました。その一事例として、カゴメ(株) 東日本大震災復興支援室

鈴木(孝)：地域をつくる人材が少ないという話を聞きますが、人が動きやすい環境づくりの難しさや工夫がありましたら教えてください。

吉田：今後10年20年かかる地域の復興を担う若手住民が、町内会の中で復興まちづくりに関わりやすい環境や活動づくりが大切だと思います。若い人が関わりやすい参加型の植樹活動などを中心にまちづくりを進めていこうと考えています。

鈴木(誠)：若林区は町内会単位で動いています。まずは町内会単位の長老的な存在に声掛けをするところから始めています。震災を機にやっていかなければならないのは、女性・若い人たちの活用をどう図っていくかということだと思っています。

藪島：活動を起こす時は、地域の人へじっくりヒアリングします。その中でだんだん見えてくるものがあり、「この人に言ってもらうと話が動く」というのを見極めるのに時間がかかりますね。人が動くことができる単位を見極め、小さな単位で実行していくことを心がけています。そこから波及していけばいいなと。浮いてしまわないようにするのも気を付けないといけないが、実行してみせるということも大事です。

鈴木(孝)：若林・宮城野両区の団体は行政に一方的に依存しない、非常に自立した地域ですが、地域の自立には何が必要ですか？

吉田：外部のリソースを上手く活かすことだと思います。地域の中だけで考えるのではなく、町内会がNPOや企業などと連携してまちづくりを進めていく、新しい地域の枠組みがつくれたらと思っています。

鈴木(誠)：応援隊の派遣は3年間。自立した地域をつくる人材として、3年で応援隊が地域に根ざせる道筋をつけなければなりません。

藪島：アメリカではオーガナイザーという、地域を見つめ多方面の資源を有効につなぐ役割があります。現在、地域の中心になっている60～70代の方に、今のうちに外とつながりを持ってもらい、多様な人が入ってくるようにしておくと思いいます。

鈴木(孝)：正直、復興のための地域づくりは苦労が絶えないと思いますが、それに関わろうとする理由は何ですか？

吉田：震災があって、様々な地域の方々に助けられ、改めて地域のつながりの大切さに気付かされました。日本社会の中で失われつつある地域の姿ですが、また震災前のような地域のつながりがある南蒲生を取り戻したいと思い、取り組んでいます。

鈴木(誠)：この地震と津波の大惨事から、何かしなければならなかったと思っていたところ、若林区まちづくり推進課への異動の拝命を受けました。お茶っこ文化など地域の良さを残していきたいと思っています。

藪島：出会ってしまったから。このようなステージを与えていただいて、ここで何かをしなければ、波及していかない。外から入ってきた人間として、伝える役割があると思っています。

■地域の復興のまちづくりに必要なこと

これからの復興、地域づくりに関して意見交換がなされた今年度の報告会においては、地域の人々と地域外の人々が交流する機会の必要性や、震災が起こる以前からの地域の高齢化や人口減などの課題について、生の意見を聞くことができました。そして、地域の人材を育て、地域で暮らせる仕組みとその準備を早くから進める必要性があるのではないかという共通の認識が得られた報告会となりました。



▲パネルディスカッションの様子

➡震災復興支援活動情報「サポセンかわら版」は、毎月約12,000部発行し、被災された方々へ様々な支援活動の情報を届けています。



➡「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称骨プロ)」は、市民の情報の受発信を支援するために、市内11の公共施設が協力しています。

➡「ぱれっと」は、毎月約3,000部発行。市内の公共施設、県内外のNPOセンターなどに送付しています。

➡「相談つながるサロン」は、市民活動やシニア活動の総合相談です。



が、活動の連携先を求めて来館したのは、震災から1年が経とうとする頃。被災地でのニーズが刻々と変わる中、今現在どんな支援が必要とされ、求められているのか、何度も相談を重ねました。結果として食品会社としてのリソースを活かし、地域に密着した息の長い支援活動を続けたいという想いが共感され、被災地の仮設住宅自治会、NPO法人などとの連携が広がっています。

●交流と語り合いの場を提供

今年度の新しい試みとして団体同士の交流を促進し被災地域での活動につなげる場として「サポセンサロン」を年間を通じて10回実施しました。6月に行ったサロンでは、宮城県共同募金会や仙台市社会福祉協議会と協力し、初めての助成金獲得を目指す復興支援団体を対象とした助成金説明会を実施しました。震災を機に被災地域で活動を始めた団体にとって、活動をもう一步発展させるチャンスとなりました。

9月には、情報発信力を高めるための意見交換会を開催。この場で出された共通する課題に関して、さらに話し合いを深めようと「考えるテーブル支援のかたち」へと発展していきました。この開催にあたっては、せんだいメディアテークの「3がつ11にちをわすれないためにセンター」と企画段階から協働で実施することで、広く市民とともに震災の記憶が風化しないための取り組みを考える場を提供することができました。

●被災地の支援団体同士の橋渡し

昨年度から継続して震災の被害が大きかった若林区や宮城野区に出かけ、サポセンの持つ資源を復興支援活動に活かし、そのノウハウを支援の現場に持ち込んで提供するよう取り組んでいます。

特に若林区では、被災者と行政、市民活動団体の復興支援の連合体である六郷・七郷コミネットの部会の委員として、地域活動の情報提供や発信に関する支援を行っています。また、同区の社会福祉協議会などの主催する復興支援関連のフォーラムでは、企画立案時から関わり、サポセンの全国的ネットワークを活かしてゲストコーディネートを行いました。

また2013年2月に開催した「復興支援活動報告会」では、まだまだ足りない復興の担い手を一人でも多く育成する取り組みを進めていくため、これからの「地域人材」について考えました。

サポセンでは、今後も復興支援活動に関する情報発信、課題を共有する場や活動資源の提供、相談を行っています。

➡「サポセンサロン」とは、参加者同士の情報交換や学び合いを通して復興の今を知り、社会にある資源を被災地で活動する方々につなげる企画です。



➡「考えるテーブル」とは、人が集い語り合いながら震災復興や地域社会について考えていく場です。「考えるテーブル支援のかたち」はサポセンとせんだいメディアテークの共催。

➡「復興支援活動報告会」では、被災地で復興支援活動に取り組む団体をゲストに招き、これからの「支援のかたち」について考えました。



支援情報一覧

※2012年4月(24号)～2013年3月(35号)まで「サポセンかわら版」に掲載したものです。
※なお、連絡先等は2013年3月現在の情報です。掲載内容に関しては当センターまでお問合せ下さい。

分野	団体名	支援内容	連絡先	掲載号
健康	宮城県ユースホステル協会	東北の山や草原、溪谷を旅してみませんか？登山、ハイキング、平日ウォークを行っています	TEL&FAX:022(295)1482 (月・火・木・金曜日13:00～16:00) E-mail:myh@jn3.so-net.ne.jp	25 (5月号)
	アリス(子宮筋腫、内膜症の会)	子宮筋腫や子宮内膜症等の良性疾患を持つ人たちのための自助グループ 月に1度、情報交換会を開催	FAX:022(268)4042 仙台市市民活動サポートセンター レターケースNo.145	25 (5月号)
	仙台市地域活動栄養士会 子どもの食事研究グループ	大切な栄養と食事のサポート本『バーラちゃんの非常食BOOK』～もしもの時困らない食生活ために～	FAX:022(277)4757 E-mail:sleepy2@jcom.home.ne.jp	31 (11月号)
国際	公益財団法人 宮城県国際化協会(MIA)	日本語を学習したい外国の方のための日本語ボランティア募集中!	TEL:022(275)3796 FAX:022(272)5063 E-mail:mail@mia-miyagi.jp	31 (11月号)
	技能ボランティア海外派遣協会(NISVA)	シニア世代が持っている技術、経験、知識を、東南アジアの国々へ派遣。参加者募集中!	TEL:090(1374)6425 E-mail:kurione1114@yahoo.co.jp HP有	31 (11月号)
	財団法人 仙台国際交流協会	多言語防災ビデオ「地震!その時どうする?」日本語、英語、中国語、韓国語の4言語に対応	TEL:022(265)2480 E-mail:plan2@sira.or.jp HPあり	35 (3月号)
こころ	NPO法人 子どもグリーンサポートステーション	親を亡くした子どもたちと、その家族の方々のためのグリーンサポート	TEL:070(5586)1165 E-mail:info@cgss.jp	32 (12月号)
こども	託児スペース ボルカ	♪子どもの一時預かり♪被災者の方への減免があります	FAX:022(279)2883 E-mail:kodomo_katei_sien@yahoo.co.jp	24 (4月号)
	NPO法人 アスイク	【泉区】小中学生対象 放課後の個別学習サポート	TEL:022(781)5576 E-mail:info@asuiku.org HP有	24 (4月号)
	NPO法人 キッズドア東北本部「タダゼミ」事務局	無料の高校受験対策講座「タダゼミ」開催中	TEL:080(3338)1776、080(3337)9893 E-mail:tohoku@kidsdoor.net (件名に「タダゼミ」と明記)	26 (6月号)
	一般社団法人 マザー・ウイング	震災の影響で福島県から仙台市に転入してきた乳幼児親子向けサロン「さびたん's」開催	TEL:022(772)7341 連絡可能時間帯:10:00～17:00 (月曜・祝日の翌日を除く)	27 (7月号)
	お父さん委員会幼児部	これからパパになる方から小学校入学前の子どもを持つお父さんの育児サークル 会員募集中!	TEL:090(3642)8924 HP有	30 (10月号)
	災害子ども支援ネットワークみやぎ	震災の発生により、子どものことで困難を抱える家庭を支援	TEL:022(279)7239 E-mail:saigai_kodomo@yahoo.co.jp HP有	31 (11月号)
	ハッピーママ[親魂部]	笑顔を取り戻そう! 元気になるフリーペーパー「オヤタマ」作成	E-mail:oyatama.smile@gmail.com HP有	33 (1月号)
	三陸こざかなネット	震災記録漫画「ねえねえしってたあ?」大震災を乗り越える親子の記録	TEL:090(2975)4867 E-mail:kn.nakayama@dream.jp HP有	33 (1月号)
	NPO法人 アスイク	被災や経済的に余裕のない子どもたち(小学5年生～高校生)の学びのサポートをしてくださる方を募集	TEL&FAX:022(781)5576 E-mail:info@asuiku.org HP有	33 (1月号)
	サークルあめんぼ	母と子のうたごえサークル会員募集中!	TEL:090(1932)4519 E-mail:amenbo_utagoe@yahoo.co.jp HP有	34 (2月号)
支援	食育NPO「おむすび」	冊子「笑顔をつなぐ「食」の楽しさ大切さを」が完成!	TEL&FAX:0229(24)3436 E-mail:tomokoomusubi0222@yahoo.co.jp	24 (4月号)
	日本カーシェアリング協会	被災地カーシェアリングプロジェクト～共同利用できる車を支援します～	TEL&FAX:0225(22)1453 E-mail:info@japan-csa.org HP有	24 (4月号)
	「三浦綾子の本を送ろう」実行委員会	苦難といかに向き合うかをテーマに書いた「三浦綾子の本」をオープン配布します	TEL:0166(69)2626	24 (4月号)
	こどもとあゆむネットワーク	被災地と全国をつなぐ「結(ゆい)てぬぐい」販売開始	TEL:022(273)3788 FAX:022(275)7734 E-mail:yokotaya@y6.dion.ne.jp E-mail:ayumunet@gmail.com	25 (5月号)
	慰問集団仙台てっぱ会	仮設住宅での交流イベントやチャリティコンサートを行っています	TEL:090(1373)9604 (着信専用。翌日こちらから折返しいたします) E-mail:erezohya@gmail.com	25 (5月号)
	一般社団法人 宮城県マンション管理士会	無料相談会 マンション管理に関する様々な相談に取り組んでいます	TEL:022(218)2003 FAX:022(244)6021 HP有	26 (6月号)
	公益社団法人 宮城県シルバー人材センター連合会	55歳からの“やる気”を応援します 技能と知識を身につけて再就職を目指しませんか?	TEL:022(797)8035 FAX:022(712)8856 HP有	26 (6月号)

※「サボセンかわら版」のバックナンバーは、当センター1階情報コーナーにあります。HPでもご覧いただけます。

分野	団体名	支援内容	連絡先	掲載号
支援	泉区福祉ガイドブック作成委員会	「忘れない 伝えよう つながろう 東日本大震災の記録宮城」～福祉施設の対応、支援活動団体を紹介	E-mail:izumi8guide@hotmail.co.jp HP有	27 (7月号)
	NPO法人 冒険あそび場 ーせんだい・みやぎネットワーク	「産直広場ぐるぐる」六郷・七郷の元気野菜を中心に市場直送の安心・安全な食材を移動販売。	TEL:080(1692)4633.022(264)0667 E-mail:santykuhiroba_guruguru@yahoo.co.jp	28 (8月号)
	おとな女子3040 PROJECT	これからも被災地に生きる女性とともに「こころるラジオ」放送中	E-mail:oj3040project@excite.co.jp HP有	28 (8月号)
	NPO法人 セージハウス	地域サロンぶらっとほ～む木町 被災者と地域住民のための交流サロン開設	TEL:022(341)8025 FAX:022(355)7481 HP有	29 (9月号)
	公益社団法人 仙台市シルバー人材センター パソコン事業班	シルバー人材センターのいきいきパソコン教室 生徒募集	TEL:022(214)6262 FAX:022(214)6264	29 (9月号)
	暮らしサポート隊	避難住民の手記をまとめた記録誌 『みちのくだんわ室・1周年記念誌』発行	TEL&FAX:078(781)1170 E-mail:VZZ10701@nifty.com HP有	30 (10月号)
	JACK IN SMILE (ジャックインスマイル)	「笑顔カレンダー」を通してコミュニティの再生や 新たな繋がりを生み出します	TEL:070(5629)6553 E-mail:blueman0610@gmail.com HP有	31 (11月号)
	チャリティサンタ (Charity Santa) 仙台支部	サンタクロースに扮したボランティアスタッフによる、 クリスマスプレゼントのお届け活動	TEL:070(5628)4652 E-mail:sendai@charity-santa.com HP有	31 (11月号)
	一般社団法人 ReRoots(リルーツ)	仙台朝市の中に若林区復興支援ショップ 「りるまあと」出店	TEL:022(762)8211 E-mail:reroots311@yahoo.co.jp HP有	32 (12月号)
	一般社団法人 東北お遍路プロジェクト	東北の津波被災地を巡礼ポイントに 「東北お遍路」発案	TEL:090(2950)4286 FAX:022(304)5127 HP有	32 (12月号)
	ふくしまほっこりカフェ実行委員会	ほっこりカフェで、不安な気持ちや 悶々とした気持ちを話ませんか？	TEL:022(262)2969 FAX:022(262)2975 E-mail:zoukabako@gold.ocn.ne.jp	33 (1月号)
	NPO法人 セージハウス	ちびっこから高齢者まで気軽に集える交流サロン 「地域サロンぶらっとほ～む木町」	TEL:022(341)8025 FAX:022(355)7481 HP有	33 (1月号)
	One World プロジェクト	東北の被災地を中心に、がん患者さんへ全国から 寄せられた医療用のカツラ・ケア帽子などをお届け	E-mail:1Wpro2011@gmail.com HP有	33 (1月号)
	とほくる (東北震災復興ツーリズム協会 法人化予定)	「復興現場の歩き方」出版プロジェクト・協力者募集	TEL:070(6564)9908 E-mail:otegami@tohokuru.com HP有	33 (1月号)
	日本弁護士連合会ほか	『東日本大震災復興支援Q&A(地震・津波被災者版) 住まいと暮らしの復興のために』発行	TEL:03(3580)9956 HP有	33 (1月号)
	浄土真宗本願寺派東北教区 災害ボランティアセンター	被災地仮設住宅居室訪問活動を行っています	TEL:022(227)2193 FAX:022(227)2195	34 (2月号)
	園児エプロンプロジェクト	被災地(南三陸町歌津)のお母ちゃんたちが縫った 園児用エプロンを販売	E-mail:enjiapron@gmail.com	34 (2月号)
	Date fm 「サバメシ防災ハンドブック」係	サバメシ防災ハンドブック2012～3.11の経験から 知る今までの防災にプラスすべき必要な事～	http://www.datefm.jp/	35 (3月号)
	自助グループ「絆」	精神障害者、身体障害を起因とする精神障害者、 アダルトチルドレン、発達障害、学習障害の方々の お話し合い	TEL:080(2841)3741 E-mail:kizuna@kizuna-forone.com	35 (3月号)
	あしなが育英会	東日本大地震・津波 特例奨学金制度 特別奨学一時金(給付)/特別奨学金(無利子貸与)	TEL:(0120)778586、03(3221)0888 FAX:03(3221)7676 HPあり	35 (3月号)
福祉	NPO法人 日本脳トレーニング協会	高齢者の認知症予防講座 「脳トレ塾」で明るく、夢のある明日へ	TEL&FAX:022(373)1468 携帯:080(1810)0307 E-mail:zatosimi@dune.ocn.ne.jp	26 (6月号)
	日本財団 遠隔情報・コミュニケーション支援事業	聴覚障害者向け代理電話サービスを無料提供	TEL:(0120)522499 FAX:(0120)522899 HP有	26 (6月号)
	みやぎ被災聴覚障害者 情報支援センター	被災した聴覚障害者の生活再建に向けた相談支援に、 手話、筆談等のコミュニケーション方法で対応	TEL:022(349)9605 FAX:022(349)9606 HP有	30 (10月号)
	株式会社 プラスヴォイス	遠くの人と筆談できる「手書き電話」 (iPad専用アプリ) であなたの指が電話になる	TEL: 022(723)1261 FAX :022(723)1262 E-mail:pv@plusvoice.co.jp	35 (3月号)
文化芸術	オーロラ合唱団	みんなで歌える合唱サークル 参加者募集!	TEL:090(5596)7336 FAX:022(726)6733	24 (4月号)

イベント・講座情報一覧

※2012年4月(24号)～2013年3月(35号)まで「サボセンかわら版」に掲載したものです。
※なお、連絡先等は2013年3月現在の情報です。掲載内容に関しては当センターまでお問合せ下さい。

掲載号	分野	主催団体名	イベント・講座名・開催月日	連絡先等
24 (4月号)	こども	財団法人 みやぎ婦人会館	平成24年度子育て広場参加者募集 4月19日(木)	TEL:022(299)4530 FAX:022(299)4531
	こころ	NPO法人 臨床バストラル教育研究センター	傾聴講習会～無力を生きるカー 4月22日(日)～25日(水)	TEL:080(1073)6738
	文化芸術	NPO法人 楽遊ネットワーク宮城	健康に歩いて巡る歴史散策「仙台三十三観音堂巡り」 4月22日(日)、5月6日(日)、6月10日(日)	TEL:022(261)9869 FAX:022(261)0546 HP有
	文化芸術	NPO法人 音楽療法NPOムジカトゥッティ	ミュージック★ハートIN仙台 音楽の癒しのちからを体験してみませんか 5月6日(日)	090(2898)3919 E-mail:tatara-happy@softbank.ne.jp HP有
	文化芸術	社のシニアコンサート 実行委員会	社のシニアコンサート～うたごえは緑の風にとって～ 5月12日(土)	TEL:022(289)3240
	文化芸術	A級MissingLink+三角フラスコ	震災以降を生きる私たちのための2つの物語 5月19日(土)～21日(月)	E-mail:info@frascoweb.jp HP有
25 (5月号)	こころ	ハベットセラビー仙台同好会	ハベット(腹話術お人形)を使った腹話術ショーとココロのケア講演 6月2日(土)	TEL&FAX:022(266)8585 E-mail:shynichi.chi@sweet.ocn.ne.jp
	支援	中野支援隊	中野小学校PTAと子どもたちの地域交流会 6月2日(土)	TEL:090(2848)6798 E-mail:nakano-shientai@apost.plala.or.jp
	音楽	とっておきの音楽祭 実行委員会SENDAI	「みんなちがって、みんないい」だれもが参加できる音楽祭 6月3日(日)	TEL:022(265)0980 FAX:022(716)5717 E-mail:info@totteokino-ongakusai.jp
	文化芸術	長崎瑞宝太鼓チャリティコンサート 実行委員会	長崎瑞宝太鼓チャリティコンサート 6月5日(火)	TEL:090(3123)6363
	音楽	Jazz Promenade in Sendai 実行委員会	初夏の野外JAZZイベント「ジャズブロムナードin仙台」 6月9日(土)、10日(日)	TEL:022(266)0708 E-mail:info@yasuda-music.jp
	こども	宮城県学童保育 緊急支援プロジェクト	宮城県学童保育講座 6月10日(日)	TEL:090(3642)4327 FAX:022(256)0533 E-mail:miyagi_gakudou0311@miyagi-npo.gr.jp
	文化芸術	お手玉サークルたんぽぽ	お手玉遊びに笑いあり「お手玉遊びの魅力講座」 6月21日(木)	TEL&FAX:022(219)8105 連絡可能時間帯:16:00以降
	音楽	宮城さい帯血バンク	親と子のふれあいコンサート 6月23日(土)	TEL&FAX:022(275)2113 E-mail:miyagicb@idac.tohoku.ac.jp
	こども	NPO法人 natural science	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2012 7月15日(日)	TEL:022(721)2035
26 (6月号)	支援	仙台市カウンセリング研究会	講座「被災地の子どもたちに寄り添って」 宮城教育大学特任教授～阿部芳吉先生～ 7月21日(土)	FAX:022(398)8581
	環境	NPO法人 環境保全米ネットワーク	食と放射能問題に関する意見交換会 7月23日(月)	TEL:022(261)7348 FAX:022(261)7488 HP有
	音楽	仙台市消防音楽隊	社の都ふれあいコンサート 7月27日(金)	TEL:022(234)1111 E-mail:syo018050@city.sendai.jp
	文化芸術	夏まつり仙台すずめ踊り 実行委員会	夏まつり仙台すずめ踊り 前夜祭 7月28日(土) 本祭 7月29日(日)	TEL:022(299)2366 FAX:022(299)2361 E-mail:info@suzume-odori.com
	福祉	「HELPMAN!●JAPAN」in 仙台 実行委員会	HELPMAN!●JAPAN in 仙台 ～震災復興から500日 あの日を忘れないために～ 7月28日(土)、29日(日)	TEL:022(365)9727 E-mail:yakoutyuunowa@gmail.com
	福祉	仙台障がい者合気道稽古会	障がい者のための合気道教室 8月2日(木)、8月30日(木)	TEL:080(3328)7598 連絡可能時間帯:17:00～22:00 E-mail:shyougai.aikido.sendai@live.jp
27 (7月号)	文化芸術	コンサート企画グループ きん・こん・かん (近所でコンサート鑑賞会)	若林区ゆかりの演奏家たちによる「真夏の夢コンサート」 8月4日(土)	TEL:022(223)3753 連絡可能時間帯:20:00～21:30
	健康	公益財団法人 エイズ予防財団	シンポジウム「東日本大震災とHIV陽性者」 8月5日(日)	TEL:090(2847)3751 FAX:022(261)6556 HP有
	支援	七夕茶会実行委員会	仙台七夕茶会～震災の疲れを癒しませんか?～ 8月6日(月)～7日(火)	TEL:022(222)6710
	支援	仙台市市民活動サポートセンター	考えるテーブル「復興支援活動報告会・夏」 8月8日(水)	TEL:022(212)3010 FAX:022(268)4042 HP有
	文化芸術	震災復興応援委員会 東北学院大学落語研究会OB会	元気の出るコンサート&時どき落語 8月12日(日)	TEL:090(5593)7381 080(1849)0364
	支援	Sendai Lycée (センダイ リセ)	あらゆる世代の女性の生き方を考える ～第1回おしゃべりサロン開催～ 8月30日(木)	E-mail:sendai.lycee@gmail.com HP有

※「サボセンかわら版」のバックナンバーは、当センター1階情報コーナーにあります。HPでもご覧いただけます。

掲載号	分野	主催団体名	イベント・講座名・開催月日	連絡先等
27 (7月号)	文化芸術	Theatre Group “OCT/PASS”	演劇公演「方丈の海」 8月30日(木)～9月3日(月) 9月5日(水)～9月8日(土)	TEL:090(6850)8165 E-mail:octpass1995@gmail.com
	こども	NPO法人 せんだいファミリーサポートネットワーク	ママともサロンjunior開催 8月31日(金)	TEL&FAX :022(714)2088 連絡可能時間帯:平日9:00～18:00 HP有
28 (8月号)	支援	NMTプロジェクト	被災地の様子と復興への歩み展 9月1日(土)～9月15日(土)	E-mail:nmtproject2009@yahoo.co.jp HP有
	文化芸術	NPO法人 音楽療法NPOムジカトゥッティ	ミュージック★ハートIN仙台vol.4 9月9日(日)	TEL:090(2898)3919 E-mail:tatarahappy@softbank.ne.jp HP有
	文化芸術	宮城県漢詩連盟	漢詩養賢講座―陶淵明に学ぶ― 9月19日(水)	TEL:090(7067)3710 E-mail:kansisigin@jcom.home.ne.jp HP有
	支援	にゃっき〜ず	発達障害の子どもへの就労支援講演会を開催 9月23日(日)	FAX:022(276)3077 E-mail:fleur@knyackies.com HP有
	文化芸術	高山広ショー店	復興支援公演 高山広ひとり芝居「おキモチ作戦」劇励」 9月29日(土)	TEL:090(6229)6766 E-mail:operation_okimochi@yahoo.co.jp HP有
	健康	厚生労働省/宮城県/仙台市/ 一般財団法人 長寿社会開発センター	第25回全国健康福祉祭 宮城・仙台大会 ねんりんピック宮城・仙台2012 10月13日(土)～16日(火)	TEL:022(266)8143 FAX:022(266)8147 HP有
	健康	宮城県武術太極拳連盟	ねんりんピック宮城・仙台2012太極拳交流大会 10月14日(日)	TEL&FAX:022(234)3673
29 (9月号)	こども	ふぁみり〜サポートルーム なないろばし	す〜っと気持ちが楽になる たたかない子育てのススメ 10月6日(土)	TEL:080(3335)7716
	文化芸術	つむぎびと	3・11を忘れない音楽と語りのつむぎらいぶ 10月7日(日)	TEL&FAX:011(631)4266 HP有
	支援	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 中核支援あいセンター	「作品展」～復興への願い、共に歩む 一歩前へ～ 10月10日(水)、11日(木)	TEL:022(217)7234 FAX:022(721)1266 HP有
	支援	みなし仮設住宅制度研究会	みなし仮設住宅がもたらす問題についてのシンポジウム 10月12日(金)	TEL:080(5531)1390 E-mail:minashikasetu@gmail.com
	文化芸術	仙台長町紙芝居フェスティバル 実行委員会	「神出鬼没かみしばいあふれる笑顔」 10月13日(土)	TEL&FAX:022(342)1579 HP有
	支援	名取交流センター協議会	被災者のための傾聴お茶会 10月15日(月)、11月 5日(月)	TEL:090(6253)5640
	健康	NPO法人 AA日本ゼネラルサービス	東日本大震災とアルコール問題 10月21日(日)	TEL&FAX:022(276)5210 E-mail:aa.tco20@gmail.com HP有
	福祉	みやぎ手話工房フロムハート 「珈琲とエンビツ」 仙台上映実行委員会	ドキュメンタリー映画「珈琲とエンビツ」 10月21日(日)	FAX:022(251)6189 E-mail:deaf-mute-masakari@r5.dion.ne.jp
30 (10月号)	国際交流	マサイの戦士がやってくる実行委員会 NPO法人 アマニヤアフリカ(協力団体)	Jambo!Africa!マサイの戦士がやってくる! in仙台 10月27日(土)	TEL:090(9636)3020 E-mail:jambo.africa.sendai@gmail.com HP有
	健康	NPO法人 日本健康づくり協会宮城県支部	健康呼吸体操「益気功」 11月4日(日)、12月2日(日)、1月6日(日)、2月3日(日)、3月3日(日)	TEL:070(6953)8885 HP有
	こども	仙台市子育てふれあいプラザ のびすく仙台	のびすく仙台バザー 11月8日(木)	TEL:022(726)6181 FAX:022(214)5071 HP有
	文化芸術	NPO法人 音楽療法NPOムジカトゥッティ	ミュージック★ハートIN仙台ゴスペル倶楽部音楽交流会 11月11日(日)、18日(日)、12月9日(日)	TEL:090(2898)3919 E-mail:tatarahappy@softbank.ne.jp HP有
	文化芸術	仙台ゴスペル・フェスティバル 実行委員会	ゴスペルワークショップ 11月16日(金)	TEL:090(2849)0785 連絡可能時間帯:10:00～19:00 E-mail:gospelws2012@gmail.com
	こころ	仙台グリーフケア研究会	大切な人を亡くした方のわかしあいの会 11月17日(土)	TEL:070(5548)2186 FAX:022(268)4042(宛名にNo.85と併記)
	文化芸術	仙台ゴスペル・フェスティバル 実行委員会	杜の都の歌声祭典 第11回仙台ゴスペル・フェスティバル 11月17日(土)	TEL:022(762)5742 連絡可能時間帯:10:00～19:00 E-mail:info@gosfes.org
	支援	「未来仙台市」実行協議会	若者による自治体デザインコンテスト「未来仙台市」 12月16日(日)	E-mail:miraisendaishi2012@gmail.com
31 (11月号)	文化芸術	みちのくフレンズ	第四回全国ハーモニカ演歌サミットin宮城 12月16日(日)	TEL&FAX:0229(25)4506 E-mail:fuke-m@estate.ocn.ne.jp
	健康	WIN^ ^WIN(ウィンウィン)	健康呼吸体操「益気功」～心の健康づくり～ 11月29日(木)、12月12日(水)、1月31日(木)	TEL:070(6953)8885

※2012年4月(24号)～2013年3月(35号)まで「サボセンかわら版」に掲載したものです。
※なお、連絡先等は2013年3月現在の情報です。掲載内容に関しては当センターまでお問合せ下さい。

掲載号	分野	主催団体名	イベント・講座名・開催月日	連絡先等
31 (11月号)	健康	公益財団法人 エイズ予防財団	World AIDS Day Concert in SENDAI 12月1日(土)	TEL&FAX:022(261)6556
	文化芸術	HiLiNE実行委員会	HiLiNE WINTER FES 音楽×アートの冬フェス始まります! 12月8日(土)	E-mail:info@hiline.jp HP有
	こども	NPO法人 せんだいファミリーサポートネットワーク	福島ママのためのママともサロン0123 12月14日(金)	TEL:022(726)6181 連絡可能時間帯:9:30～17:00
32 (12月号)	文化芸術	公益社団法人 落語芸術協会	仙台新春公演「魅知国(みちのく)仙台寄席」 1月2日(水)、3日(木)	TEL:022(263)9608 連絡可能時間帯:平日10:00～18:00 HP有
	こども	ドリブラ☆東北魂実行委員会	ドリームブランプレゼンテーション東北魂2013 1月5日(土)	TEL:022(299)0663 E-mail:drepla.tohoku@gmail.com
	福祉	デフ・ウィンターフェスティバル in SENDAI vol.3実行委員会	手話パフォーマーによる震災復興手話イベント 1月12日(土)	FAX:022(251)6189 E-mail:deaf-mute-masakari@r5.dion.ne.jp
	文化芸術	NPO法人 エイブル・アート・ジャパン	福祉をかえる「アート化」セミナー@宮城 スタディツアー 1月13日(日)	TEL:03(5812)4622 FAX:03(5812)4630 HP有
	文化芸術	NPO法人 エイブル・アート・ジャパン	福祉をかえる「アート化」セミナー@宮城 「生きる力の取戻し」と「しごと」の復興」 1月14日(月・祝)	TEL:03(5812)4622 FAX:03(5812)4630 E-mail:office@ableart.org
	支援	NPO法人 20世紀アーカイブ仙台	“昭和の仙台”8ミリで楽しむ茶会 1月23日(水)	TEL:022(387)0656 FAX:022(387)0651 HP有
	文化芸術	New Year Jazz Garden in Sendai 2013 実行委員会	ジャズde元氣!震災復興のチャリティコンサート 1月26日(土)	TEL:022(276)2230 022(392)2992 090(2368)8773
33 (1月号)	健康	NPO法人 日本健康づくり協会宮城県支部	益気功～健康呼吸体操と仲間づくりで心と体を元気に!～ 2月3日(日)、3月3日(日)	TEL:070(6953)8885
	こども	CAP歩歩(キャップポポ)	“子どもを守るために大人ができること”一緒に考えてみませんか 2月16日(土)	TEL:070(6951)0440 E-mail:sakae-ohhisa@nifty.com
34 (2月号)	文化芸術	NPO Love☆Live☆Life☆Japan	声×音×絵の朗読会 稲吉紘実・絵のない絵本 3月10日(日)	TEL:090(1496)6844 E-mail:rock-stars@nifty.com
	こども	ままふあ会	「津波のあとの時間割～石巻・門脇小1年の記録～」上映会 3月10日(日)	E-mail:mamafuasendaiinfo@yahoo.co.jp
	文化芸術	東北サクソフォンフェスティバル 実行委員会	第一回東北サクソフォンフェスティバル 3月17日(日)	TEL:090(8610)7335 HP有
	こども	お外育児の会「あおぞら」	親子であったかスープを作ろう! 3月18日(月)	E-mail:tera_tae616@za3.so-net.ne.jp
	こころ	NPO法人 ハートライフせんだい	第7回こころの癒しコンサート 3月20日(水)	TEL & FAX: 022(251)3923 連絡可能時間帯:月～金曜日9:00～16:00
	支援	smile マルシェ実行委員	smile マルシェvol.4 お気軽にお立ち寄りください 3月23日(土)	TEL&FAX:022(398)6066 E-mail:smilemarche@excite.co.jp
	文化芸術	Vinculum (ヴィンクルム)	東日本大震災メモリアルコンサート 共に歩もう～3.11を忘れない～ 3月24日(日)	TEL:022(274)6451
	文化芸術	NPO法人 楽遊ネットワーク宮城	健康に歩いて巡る歴史散策「仙台三十三観音堂巡り」 4月21日(日)	TEL:022(261)9869 FAX:022(261)0546 HP有
35号 (3月号)	福祉	せんだい豊齢学園	平成25年度の学園生を募集しています 募集期限3月31日(日)	TEL:022(215)3129
	文化芸術	Dunya Bellydance Group	アラブ音楽と文化の音楽講座～アラブ音楽の夕べ～ 4月13日(土)	TEL:090(9857)7806 E-mail:yuko-pulpu@t.vodafone.ne.jp
	文化芸術	混声合唱団「風雅」	歌声を聴いて、春を感じませんか? 4月15日(月)	TEL:022(378)2795
	文化芸術	仙台国際音楽コンクール ボランティア	せんだい街かどスナップ写真コンテスト写真募集! 募集期限4月19日(金)	TEL:022(727)1872 FAX:022(727)1873 HPあり
	環境	ACT53仙台	第44回もったいない市 4月28日(日)	TEL&FAX:022(295)2910 連絡可能時間帯:毎週金曜日10:00～15:30 E-mail:act53sendainakama@yahoo.co.jp
	文化芸術	Re:Light実行委員会	Re:Lightサミット01「震災×東北×音楽」アコースティックライブ 4月29日(祝月)	E-mail:relight.tohoku@gmail.com

NPO・市民活動団体等による電話相談

掲載された電話相談に関する情報は、相談日、受付曜日、時間など、それぞれ団体ごとに違っておりますのでよくお確かめのうえご相談ください。なお、掲載されている情報は、2013年3月現在のものです。

健康 がん相談ホットライン

公益財団法人日本対がん協会

電話:03(3562)7830

受付時間:10:00～18:00 毎日(祝日・年末年始・夏期休暇を除く)
●セカンドオピニオンのこと、抗がん剤の副作用の不安、手術後の職場復帰にあたっての悩みなど、お電話ください。一人原則20分。

健康 エイズ電話相談

東北HIVコミュニケーションズ(THC)

電話:022(276)1960

受付時間:18:00～21:00 毎週土曜日(お盆・年末年始除く)
●HIV/AIDSに関する相談、質問、感染の不安がある方からの相談に、専門的なトレーニングを積んだ相談員が応えます。

こころ 東日本大震災こころの相談ホットライン・みやぎ

内閣府／宮城県

電話:(0120)933887

受付時間:8:30～16:45 月～金曜日(祝日除く)
●被災した方、支援している方のご相談に対応します。専門の相談員が担当し、秘密は厳守いたします。

こころ 電話で傾聴

仙台傾聴の会

電話:080(3199)4481

受付時間:9:00～17:00 毎週火・木・土曜日
●誰かと話すだけでも気持ちが落ち着きます。研修を積んだ傾聴ボランティアが、ゆっくりとお話をお聴きします。

こころ よりそいホットライン

一般社団法人 社会的包摂サポートセンター

電話:(0120)279338

受付時間:24時間
●一人にしない、社会から切り離さないことを目指しています。どんな悩みでも、一緒に解決を考えます。

こころ こころの健康電話相談

宮城県臨床心理士会

電話:022(290)6656

受付時間:毎月第1土曜日17:00～20:00
●こころの健康に関する様々な悩みや相談をお受けします。問題解決への第一歩を踏み出せるよう、共に考えます。

こころ いのちの電話

社会福祉法人 仙台いのちの電話

電話:022(718)4343

受付時間:24時間
●死にたくなるほどの気持ちを抱え、悩み苦しんでいる方の声に耳を傾け、受けとめます。

こころ 精神障害者のピアカウンセリング

宮城精神しょうがい者団体連絡会議(宮精連)、
精神障害者自助グループ「心のネットワークみやぎ」

●2013年3月末で、電話相談は終了しました。

こども 青少年の自立相談

NPO法人 ミヤギユースセンター

電話:022(256)7977

受付時間:10:00～17:00(日・祝を除く)
●中卒、高校中退、不登校による学習の不安、進路に悩んでいる青少年の自立をサポートします。

こども ママパパライン仙台

NPO法人 せんだい杜の子ども劇場

電話:022(773)9140

受付時間:10:00～16:00 毎週金曜日
●子育ての悩みや不安な気持ちを聴く子育て応援ダイヤルです。研修を受けた先輩ママたちが、お話をやさしくお聴きします。お気軽にお電話ください。

こども お子さん、保護者の無料相談

東北大学震災子ども支援室“Sーチル”

電話:(0120)376241

受付時間:9:00～17:00 月～金曜日
●お子さんは学校、友達、進路、家族についてなど、保護者は子育て、お子さんの発達についてなど、お気軽にご相談ください。

こども 子育ての電話相談

子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ(キャブネット・みやぎ)

電話:022(265)8866

受付時間:10:00～16:00 月～土曜日
●子育ての不安、子どもに辛くあたってしまう、親から傷つけられているなど、子育て、虐待の悩みをお聞きます。

こども 18歳までの子ども専用電話

NPO法人 チャイルドラインみやぎ

電話:(0120)997777

受付時間:16:00～21:00 月～土曜日
●子どもの話を聴くことで、子どもが自分の力に気づいて自信を取り戻し、どうするべきか決めていくためのお手伝いをしています。

支援 女性のための電話相談

NPO法人 ハーティ仙台

電話:022(274)1885

受付時間:13:30～16:30(月～金曜日)18:30～21:00(第1～4火曜日 祝日は休み)
●離婚、夫や恋人からの暴力、セクハラ、性暴力、ストーカー被害、離婚問題などの相談を女性相談員がお受けします。

支援 エルソーラ仙台 女性のための電話相談

公益財団法人 せんだい男女共同参画財団

電話:022(224)8702

受付時間:9:00～15:30 月・水～土曜日
●こころの問題、生き方、夫婦・男女の問題、家庭、子育て、DV、セクハラなどのさまざまな問題に女性相談員が応じます。

支援 弁護士による無料電話相談

NPO法人 ワンファミリー仙台

電話:022(398)9854

受付時間:13:00～16:00 毎週金曜日(祝日除く)
●震災を理由に解雇されてしまった、生活が困窮しているなど、悩んでいること・心配事があれば、お気軽にご相談ください。

支援 飲酒の問題に関する相談

AA東北セントラルオフィス

電話:022(276)5210

受付時間:13:00～17:00 月～金曜日(祝日除く)
●アルコール依存・アノニマスは、アルコール依存の問題を解決し、他の人たちも回復するように手助けする共同体です。

支援 薬物・アルコール問題の相談

NPO法人 仙台ダルク・グループ

電話:022(261)5341

受付時間:9:30～17:00 月～土曜日
●「今日一日だけ薬を使うのを止めよう」をスローガンに、薬物依存症者の回復を手助けしています。

支援 再就職活動の支援

一般社団法人 仙台・再就職活動支援センター

電話:022(398)6218

受付時間:9:00～17:00 月～金曜日(祝日除く)
●被災により離職を余儀なくされた方々へ、再就職活動を支援(書類作成指導等)します(就職先の斡旋ではありません)。

支援 法律相談センター震災無料法律相談

仙台弁護士会

電話:022(223)2383

受付時間:10:00～15:00 月～金曜日(祝祭日除く)
月・木曜日は17:30～19:30、
土曜日は10:00～11:30も受付(予約可)
●震災時、宮城県等にお住まいだった方で個人の民事に関する内容(刑事事件以外のほぼ全てが対象)は、3回まで相談無料です。

支援 みやぎ外国人相談センター

公益財団法人 宮城県国際化協会(MIA)

電話:022(275)9990

受付時間:中 国 語:月～金曜日 8:30～17:15
韓 国 語:月～金曜日 10:00～16:45
英 語:月～金曜日 8:30～17:15
ポルトガル語:金曜日 10:00～16:45
タガログ語:水曜日 10:00～16:45
日 本 語:月～金曜日 8:30～17:15
●みやぎで暮らす海外出身者のみなさん、毎日の生活の中で悩みごとや困りごとがありましたら、ご相談ください。

支援 国分町駆け込み寺電話相談

公益社団法人 日本駆け込み寺

電話:022(395)7740

受付時間:10:00～18:00(土日祝は休み)
●年齢、性別、国籍、被害者、加害者を問わず、DV、金銭トラブル、家出、いじめ、引きこもりなどの相談を受け、サポートします。

支援 生活なんでも相談

財団法人 宮城県労働者福祉基金協会

電話:(0120)980629

受付時間:10:00～16:00 月～金曜日(祝日除く)
●労働、金融、生活保障、介護、法律、多重債務など、生活に関する相談やお悩みをワンストップで解決するサポートを行います。

福祉 被災地での障がい者支援

被災地障がい者センターみやぎ

電話:022(746)8012

受付時間:10:00～17:00 月～土曜日
●被災地で生活されている障がい者ご本人やご家族からのお話を伺い、解決に向けていっしょに取り組んでいきます。

福祉 発達障害の電話相談

NPO法人 自閉症ピアリングセンターここねっと

電話:022(223)1112

受付時間:10:00～18:00 火～土曜日
●発達支援が必要な方、そのご家族に対して、「既存の枠に捉われない」「常に本人と家族を中心に置いた」支援を行います。

福祉 ひきこもりに関する相談

NPO法人 わたげの会

電話:022(285)3581

受付時間:10:00～17:00 月～金曜日(祝日、年末年始除く)
●ひきこもり等で悩む本人、ご家族、友人の方の相談、情報提供を行います。自信をもって社会参加できるようサポートします。

福祉 認知症の方への接し方の相談

公益社団法人 認知症の人と家族の会宮城県支部

電話:022(263)5091

受付時間:9:00～16:00 月～金曜日(祝日除く)
●家族の心がわかる介護経験者がご相談にのっています。認知症に関する理解や具体的な接し方についてお尋ねください。

福祉 障害年金の無料電話相談

NPO法人 障害年金支援ネットワーク

電話:(0120)956119

受付時間:10:00～16:00(12:00～13:00を除く) 月～金曜日(祝日除く)
●「障害年金を請求したい」「障害等級の認定に納得がいけない」とお考えの方、あきらめる前にご相談ください。

福祉 酒害相談

NPO法人 宮城県断酒会

電話:022(214)1870

受付時間:10:00～17:00 月～金曜日(祝日除く)
●問題を抱える本人、ご家族の方、お近くの方、お電話ください。酒害からの回復を目指す例会のご案内もできます。



復興支援グッズ

被災地や仮設住宅の皆さんによって製作されている「手作り品」を、「サポセンかわら版」第26号(2012年6月)から第35号(2013年3月)で紹介してきました。復興への願いを込めた作品が並びましたのでご覧ください。



NPO法人 アマニ・ヤ・アフリカ

Twende (一緒に行こう)!! しまうまホープくん

●内容／ケニアの首都ナイロビにあるケベラスラム内の学校「マゴンスクール」の教師給与支援プロジェクトとして「マサイ大作戦」展開しています。復興支援の一環として、ケニアで部品を製作し、仙台市宮城野区の岡田西町公園仮設住宅の方々にその組立てをしていただいております。
◎販売金額:1,200円(税込) アマニ特製ポスター付／送料別途必要有り
◎売上内訳:教師給与650円、ケニア製作者300円、岡田西町200円、諸経費50円
●連絡先(注文受付は下記の連絡先までFAXかメールで)
TEL&FAX 022 (247) 4225 (石原方)
E-mail info@amani-ya.com



津波復興支援センター

「編み会+縫い会」 手仕事を応援しています

●内容／宮城野区沿岸部の皆さんが、仮設住宅や津波復興支援センターの集会所に集まって作っています。作品は、イベントに出展する等、委託販売しています。布や糸等、手芸材料の支援をご希望の方は、ご連絡ください。◎福田町南一丁目公園仮設住宅「編み会」:お人形さん貯金箱(1,000円)、各種ストラップ(300円) ◎岡田西町公園仮設住宅「編み会」:アクリルたわし(100円～) ◎岡田地区(在宅避難者)「つぎはぎすっぺちゃの会」:布バッグ、ポーチ等(500円～) ◎蒲生・中野地区(在宅避難者)「はまなす会」:ふくろうのにおい袋(300円)、亀くん(200円～)
●連絡先
TEL&FAX 022 (259) 0731 (担当:熊谷)



NPO法人生活習慣改善センター

いちごストラップで 自立支援

●内容／亘理町の仮設住宅にお住まいの自営業者で結成する「亘理町AKB」が製作している手芸品の製造と販売を支援しています。各種ストラップ(300円)、エコたわし(400円)、鍋つかみ(500円)、コースター(5個入り500円)、巾着(600円)、携帯電話・スマートフォン入れ(800円) 全て税込。作品は全国のイベントや学祭、みやぎ生協手作り商品カタログで販売しています。
●連絡先
TEL 080 (3149) 8452 (担当:富澤)
E-mail bosco@yakunitachimasu.com



ACT53仙台

げんき雑巾プロジェクト

●内容／東日本大震災で被災した方達が、復興への願いを込めて作っているげんき雑巾。一枚縫うごとに100円が作った方の収入になります。色糸の配色やデザインを考えながら工夫して縫う作業は、不自由な暮らしの中で夢中になって取り組める癒しの時間にもなっています。3枚一組500円で全国に向けて販売中。販売できる場も募集しています。
●連絡先
TEL 022 (295) 0878 FAX 022 (295) 2910 (担当:木下)
E-mail act53sendainakama@yahoo.co.jp
ウェブサイト http://act53genki.blog.fc2.com/



園児エプロンプロジェクト

園児用エプロンを 販売しています

●内容／津波で多くのものを失った被災地(南三陸歌津)のお母ちゃんたちが少しでも自立したいと笑顔で頑張って縫った保育園などで使う園児用エプロンを1セット(2枚組)1000円(税込、送料別)にて販売しています。お母ちゃんたちには販売利益全額を縫子料として渡しています。お申込みは下記アドレスまで。
●連絡先
メールにて受付。
件名に「園児用エプロン希望」本文に「氏名」「送付先住所」「希望セット数」を記入し、お申込みください。
E-mail enjiaprron@gmail.com



仙台市荒井小学校用地集会所「鶴亀会」

「復興かえる」で 「福幸かえる」

●内容／若林区の仮設住宅にお住まいの皆さんが、荒井小学校用地集会所に集まって製作しています。製品に使用されている真珠は、四国・愛媛県の宇和島の(有)大塚宝飾さんからいただきました。
◎ストラップ:300円、真珠付き500円
◎イヤリング、プレスレット各種:2,000円
「東北ろっけんパーク」にて販売しています。
●連絡先
TEL 080 (3194) 8799 (担当:最知)



仙台港背後地6号公園仮設住宅「チームはぎ」

幸運を呼ぶ 「伊達な亀」ストラップ!

●内容／「チームはぎ」は、仙台港背後地6号公園仮設住宅に住んでいる人たちでつくっているグループです。「伊達な亀」ストラップは、宮城野区中野小学校学区に住んでいた女性を中心となって、仲間と一緒に作り始めました。金銀の糸を使い一つひとつ心を込めた手作りと一緒に元気の出る言葉を添えてお届けしています。また、宇和島から提供された真珠を使って「伊達な福」ストラップも製作中。それぞれ、1個500円です。
●問合せ先
FAX 022 (355) 2425 (担当:遠藤)



六郷地区手芸サークル「myrtle」

知恵とアイディアで 様々な手芸品を製作

●内容／若林区六郷地区で津波被害に遭い、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの皆さんが、月に2回宮城野区にある津波復興支援センターなどの集会所で手芸品を製作しています。支援でいただいた布や材料を購入し、髪飾りやペンダントなどのアクセサリーをはじめ、マグネット、ぬいぐるみ付きクリップなど様々な作品を手作りしています。ハンドメイドショップSmart Angel(スマートエンジェル)「ザ・モール仙台長町店」、「うれしや」(仙台市若林区新寺)などで販売中。
●連絡先
E-mail sendai-myrtle@mail.goo.ne.jp
ウェブサイト http://blog.goo.ne.jp/sendai-myrtle



仙台卸町5丁目公園町内会「手作りくらぶ」

伊達雅仙台「絆」 心を込めて手作りしています

●内容／若林区卸町5丁目公園仮設住宅の集会所に、1台のミシンが贈られたことがきっかけで始まった手作りクラブ。週に1回ほど集まって作っています。作品は和風柄が粋なオリジナルデザイン。材料調達から販売まで、メンバー一人ひとりが自信をもって提供しています。◎シュシュ 350円～◎ポケットティッシュカバー 350円～◎ブックカバー(文庫版／布製・和紙製／真珠付き有) 1,000円～◎ストラップ350円～◎その他、巾着、バックなど。下記メールでお問合せのうえ、ご注文承ります。
●連絡先
E-mail orosimati5@gmail.com (担当:齋藤)
ウェブサイト http://ameblo.jp/orosimati5/

あとがき ～2013年に向けて～

震災から2年経過した現在、被災地では様々な“協働”による復興活動が行われています。支援される側から自立を目指す地域コミュニティとNPO、行政、そして企業。

多くの復興支援団体が被災地支援のために活動し、その中のいくつかの団体は現在、支援地域と一体となって、地域を再生する活動を始めました。そして、この2年で市民活動に携わる人々は確実に増え、自分たちの地域・街をより主体的に作り上げていくという意識が芽生え、とりわけ震災の被害を受けた地域の人々はその思いが強くなったように感じられます。

被災した人を支援するために遠方から来られて支援する人、そして、その支援者を支援する人など、地域づくりの協働のかたちも幾重にも形成され動き始めた2年目でもありました。

今年度私たちは、市民活動の支援施設として、復興に際し新たな課題に取り組む市民活動に対してどのようなサポートを行うべきかを考え、従来から行ってきた情報の提供や様々な研修機会創出に加え、サポセンサロンや「考えるテーブル支援のかたち」など、団体との対話を通じた課題への解決策の模索など、多様な団体が協働して課題に対応していく場の設定を行いました。

2012年度もサポセンは、市民活動を“つながる つなげる”施設として、仙台市における市民活動の支援を行い、多様な市民活動団体と協働による復興支援を進めていきます。

最後に、本書制作にあたり今回掲載させていただいた市民活動団体の皆様には、復興活動の多忙の中、多大なるご協力を頂きました。心より感謝を申し上げます。

2013年3月

編集スタッフ一同

3.11からの支援のかたち

— 仙台の復興支援活動 2012 —

発	行	仙台市市民活動サポートセンター 仙台市シニア活動支援センター 〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3 TEL 022 (212) 3010 FAX 022 (268) 4042	
発	行	日	2013年3月
編	集	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター	
デザイン・印刷所		今野印刷株式会社	